

## 日清製粉・三菱商事の提携と打合会：一九二七~三〇年の議事録

著者	大豆生田 稔
著者別名	OMAMEUDA MINORU
雑誌名	東洋大学文学部紀要．史学科篇 = Bulletin of Toyo University, Department of History, the Faculty of Literature
号	38
ページ	95-153
発行年	2012
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00006702/">http://id.nii.ac.jp/1060/00006702/</a>



# 日清製粉・三菱商事の提携と打合会

—一九二七—三〇年の議事録—

大豆生田 稔

## 一 はじめに

一九二六年二月末、日清製粉（以下、「日清」）と三菱商事（以下、「三菱」）は、外国小麦輸入の一手委託買付と製品小麦粉輸出の一手委託販売を定めた契約を結び、一九二七年三月から実施した。<sup>〔1〕</sup>これに先立ち二六年九月に、両社間に北米（アメリカ・カナダ）小麦の定期取引委託に関する覚書が交わされた。また、二七年四月には取引の具体的諸事項を取りきめた「細目協定」が成立している。<sup>〔2〕</sup>この提携により、三菱は日清の原料小麦の輸入、および日清製小麦粉の海外輸出を一手に取り扱うことになった。日清はかつて、主要な取引先である三井物産（以下、「三井」）との提携をすすめたが、三井が日本製粉と提携に切りかえたため、三菱との関係が深まったのである。<sup>〔3〕</sup>

こうして、原料小麦仕入れ、小麦粉輸出の両局面で両社の提携関係が形成されていくが、新たにはじまった両社の小麦・小麦粉取引を円滑にすすめるため、契約成立直後の二七年一月から、実務を打ち合わせる日清・三菱打合会（以下、「打合会」）が開かれることになった。打合会では、両社の小麦と小麦粉の取引をめぐる多様な問題が議題となった。両社提

表 1 日清・三菱打合会の議事録一覧

	開催年月日	出席者		Container 番号
		日清製粉側	三菱商事側	
第 1 回	1927. 1.22			4
第 2 回	1927. 2.18			4
第 3 回	1927. 3.16			4
第 4 回	1927. 4.14	丸山, 加藤, 土屋	秋山, 臼井, 塚原, 西沢	4
第 5 回	1927. 5. 4	加藤, 山鹿, 今村, 土屋	秋山, 木本, 坂井, 臼井, 塚原, 西沢	4
第 6 回	1927. 6. 9	加藤, 山鹿, 土屋	秋山, 木本, 臼井, 塚原, 西沢, 池田(上海支店)	4
第 7 回	1927. 8.18	加藤, 山鹿, 板倉	秋山, 塚原, 西沢, 池田	4
第 8 回	1927.10.13	丸山, 加藤, 山鹿, 土屋, 板倉	秋山, 木本, 前島, 塚原, 西沢	4
第 9 回	1927.11.22	丸山, 加藤, 宇野, 田中, 山鹿, 土屋	秋山, 寺田, 渡辺, 前島, 塚原, 岩崎, 西沢	4
第 10 回	1928.12.13	丸山, 森田, 加藤, 山鹿, 土屋	秋山, 木本, 前島, 塚原, 西沢	7
第 11 回	1928. 2.16	加藤, 宇野, 山鹿, 土屋, 興水	秋山, 木本, 塚原, 西沢	7
第 12 回	1928. 4.12	加藤, 山鹿, 土屋, 深沢, 板倉	秋山, 木本, 和田, 塚原, 谷口, 須藤, 西沢, 塚田	7
第 13 回	1928. 5.17	加藤, 宇野, 田中, 山鹿, 土屋, 板倉	秋山, 木本, 前島, 塚原, 西沢, 塚田, 井上(香港支店), 須藤(シンガポール支店)	7
第 14 回	1928. 6.19	丸山, 加藤, 宇野, 有田, 山鹿, 岩崎, 土屋, 板倉	秋山, 前島, 塚原, 西沢, 塚田, 西川(シアトル支店)	7
第 15 回	1928.10.23	加藤, 宇野, 山鹿, 土屋, 山之内, 深沢	秋山, 木本, 前島, 塚原, 塚田	7
第 23 回	1929. 4.23	加藤, 宇野, 山鹿, 土屋, 今村	秋山, 宮本, 藤野, 塚原, 安沢, 塚田	9
第 24 回	1929. 5.16	丸山, 加藤, 宇野, 山鹿, 石井, 土屋	秋山, 宮本, 藤野, 塚原, 安沢, 塚田, 谷川(シアトル支店)	9
第 26 回	1929. 9.19	丸山, 加藤, 宇野, 山鹿, 土屋	秋山, 松井, 島谷, 宮本, 井上, 岡(ハルピン支店), 藤野, 安沢	9
* 第 1 回	1930. 5.31	正田, 星野, 加藤, 山鹿, 齋藤, 土屋	加藤, 秋山, 島谷, 宮本, 藤野, 安沢	11
* 第 2 回	1930. 7. 1	正田, 星野, 加藤, 山鹿, 齋藤, 土屋, 山内	加藤, 秋山, 島谷, 宮本, 藤野, 安沢	11
* 第 3 回	1930.11.29	正田, 加藤, 山鹿, 齋藤, 土屋	加藤, 秋山, 寺田, 和田, 藤野, 安沢	10

出典：本文の注(4)による。Entry#61を構成する34箱のContainer番号を記した。

なお、2012年に行われた箱詰替後の番号である。

注：出席者は記載順に記した。空欄は記載がない。

携の契約は二九年末に満期となったが、さらに三二年まで三年間更新され、打合会は契約更新後も継続することになった。この打合会の議事録（タイプ印刷）の一部が、米国立公文書館のレコードグループ一三二という資料群に収められている<sup>④</sup>。現在までに確認できた議事録は表1のとおりであり、契約締結直後の一九二七年一月に第一回がはじまり、契約更新のち一九三〇年五月から、改めて第一回の打合会が開かれている。今のところ、第一六―二三回、第二七回以降、および更新の第四回以降の所在が不明である<sup>⑤</sup>。

打合会出席者の当時の肩書きをみると、日清側の丸山良太郎は取締役、正田貞一郎は取締役社長、星野唯三は常務取締役であり、そのほかは実務担当者たちであつたと思われる。三菱側の秋山昱禧は穀肥部長（のちに穀肥部が農産部と改称して農産部長）、加藤恭平は常務取締役であり、そのほか島谷脩蔵・谷川湊一はシアトル支店長、寺田虎次郎は大連支店長、松井清治郎は神戸支店長、および木本瑛一は穀肥部員であつた。両社ともに取締役と担当部局の責任者、実務担当者であり、三菱の場合は関係支店の支店長も加わつた<sup>⑥</sup>。

打合会の議事録は、提携のもとで展開した実務上の諸問題や調整事項の処理を目的に定期的に開かれた会議の記録であり、提携の実態を知るうえで重要である。本稿はその概要を知るため、各回打合会の打合せ事項を検討することを目的とする。以下、打合会議事録の形式に即して小麦、および小麦粉取引について、毎回の協議事項を紹介していく。本稿の末尾には、現存する議事録の全文を掲載した。以下、掲載した議事録の打合せ事項については、①打合会の回数（更新後は「\*」を付した）、②小麦関係（「麦」）か小麦粉関係（「粉」）か、③各議事録の第何項にあたるかを、①―②―③の順に、「02麦(1)」のように略記した。

## 二 小麦取引

### (1) 両社の取引全般

まず、両社提携の契約締結当初に、小麦買付の実務を定めた「細目協定」が作成されるが、日清は受託者三菱が結ぶ三菱海上火災保険との契約が有利になるよう申し出ている(02麦(1)、02麦(2))。そのほか、小麦委託買付に関する書類の書式など事務的な打合せがあった(11麦(1)、12麦(4))。また、カナダ飼料小麦輸入の不統一な課税について大蔵省と折衝すること(10麦(1))、外国為替は横浜正金銀行で取り組まれたが他銀行との取引も模索すること(15麦(3))、日清が外麦需要量を報告し(01麦(6)、13麦(3))、三菱は事前に需要量を知ることなども議題になった(01麦(5)、02麦(3))。のちには、小麦の荷造り方法について、バラ積みする普通品と区別するため、優良品の袋詰めを推奨することなどが打ち合わされている(26麦(1))。

新たに形成される両社の協力関係については、提携当初に、常に意見交換することや、市況や諸材料の収集のみならず、三菱は日清に小麦買付の方針を助言することを申し合わせている(01麦(9))。また、小麦買付が「不利」となる場合、結果だけを日清にもたすのではなく、事前に打ち合わせ協議することも申し合わせている(07麦(3))。

ところで、三井の動向は両社ともに注視しており、一九二七年一月の第一回冒頭に、満州製粉を援助する三井の動向について議題となった(01麦(1))。また、三井が供給する小麦粉価格は三菱価格と比較対照されており、三菱の方が割高になるとそれを日清が指摘して、三菱に「研究」を要請することになった(3麦(1))。

## (2) 外麦産地

日清は外麦産地の情報を収集し、原料小麦を研究するため北米に出張員を派遣し、三菱の北米支店もその活動を援助することになった(01麦⑧)。また豪州派遣の出張員の人選もすすめている(07麦②)。北米など外麦産地に支店を置く三菱からも、産地の情報もたらされることになった。提携成立当初に、三菱は産地情報の収集に努力し(01麦②)、欧州向け北米小麦輸出量を報告することなどを申し合わせている(01麦⑦)。とりわけ北米小麦の作況は「最も重要」な情報であった(01麦②)。また、のちには、三菱から入電の外麦相場をそのまま発表すると日清のコストが察知されるため、新聞には入電相場より三〇セントほど高めの数値を発表することを申し合わせている(15麦⑥)。

両社間の北米小麦取引が実際にすすむと、まず、金利や(10麦④)、13麦②、23麦①)、諸掛(11麦②)、12麦②)、買付値段(15麦①)についての協議や、日清指値より高値買付の余地を求める三菱シアトル支店の要望などが議題となった(10麦③)。そのほか、北米小麦引当の国内為替レートに差があることや(15麦②)、容量の欠斤(23麦②)、積出地における三菱社員立会の必要性なども協議事項となった(14麦⑤)。また、豪州小麦やカナダ小麦の品質についての打合せもあった(1麦①)。

次に、契約の対象となる北米小麦のほか、「満州」小麦についても議題となった。まず、同地小麦の豊作がカナダ小麦需要に影響するという報告があった(07麦①)。取引方法をめぐっては、日清と三菱各支店間の取引条件の不統一が議題になっている。また日清は、「満州」小麦は、神戸の直木商店など「二、三流商人」からの方が安値な仕入が可能なことを三菱に申し入れている(08麦①)、10麦②)。「北満」小麦については、品質や欠斤の問題を日清が指摘して、しばしば議題になり(11麦③)、12麦③)、14麦①)、3麦②)。検査方法についての打合せもあった(24麦①)。なお、一件だけであるが、樺太小麦の買付を日清が申し出ている(23麦③)。

### (3) 輸送

北米小麦の輸送には三菱社船を利用することが議題となったが(01麦(4)、15麦(4)、安価な場合は社外船利用を協議している(14麦(3))。海運運賃については、大西洋運賃の高騰が太平洋に影響することなどが指摘された(02麦(4))。また、豪州の傭船契約書式(Austral Form Charter Party)に規定されたチャーター手数料の払戻は従来全額日清が受けたが、三菱から代理店事務煩雑の理由で半額程度受領したい旨の申し出があった(12麦(1))。

二六年二月に第一期工事が竣工した日清鶴見工場は、船舶が直接接岸して真空吸揚装置によりバラ積み小麦を吸引・荷揚する設備を有していた。打合会の議題には、新たにはじまった鶴見港荷揚げに関するものが多い。実際には、予定を変更して横浜港荷揚げになることが多かったため、日清は鶴見港での陸揚げの徹底を申し入れている。すなわち、一〇〇〇トン程度の陸揚げでも船主の了解をとったこと(01麦(3))、二〇〇〇トン以上の場合には鶴見港で荷揚げすることなどの事項である(04麦(1))。鶴見港は喫水が浅かったため、先に横浜港で荷を下ろしたあと、最後に荷下ろしするよう日清は提案している(06麦(3))。また、鶴見港にはバースが一つしかないことも、作業能率を落としていた。鶴見港予定の陸揚げを横浜港で行った場合に生じる割増料金は日清に請求することなどが確認されている(06麦(2))。

豪州小麦の傭船契約による鶴見港荷役は、船長が同港に不慣れのためしばしばトラブルが生じていた(12麦(5))。このため日清は、横浜港や鶴見港での荷揚げにあたり、海運会社との交渉のため三菱社員の立会を求めている(14麦(4))。

## 三 小麦粉取引

### (1) 取引全般

次に小麦粉について、まず取扱全般についてみると、日清粉を三菱が一手取り扱いすること（01粉(2)、01粉(3)、従来は日清本部や各工場がそれぞれ積み出していたが、両社協議により統一することが申し合わされている（02粉(6)）。しかし、日清製品の取引条件の統一については、その後も三菱の申入れが繰り返されており（04粉(3)、05粉(5)、工場ごとにオフアー（offer、売り申込値段）が不統一であることが指摘されている（06粉(5)）。このため、三菱各支店への割当数量を打ち合わせるなど（13粉(3)）、両社の協議による統一的な販売方針が確認されている。

また、両社の取引方法についても、小麦粉代金・融通金相殺の可否（01粉(1)）、日清の小麦粉オフアーの有効期限（03粉(1)）、販売代金の支払時期（03粉(5)）についての打合せがあった。また、各輸出地における販売促進も呼びかけられた（1粉(7)）。

口銭率は契約締結当初に、あらためて両社幹部が協議することが打ち合わされた（02粉(7)）。基本契約書の口銭は実際の買約値段を基礎としたが、煩雑な手数を要し電信料もかさむため、 $\frac{1}{2}$ で計算することを申し合わせている（03粉(3)(4)）。また日清は、大連安恵棧の口銭二銭は過大であり、一銭以上の部分を三菱の負担とすることを求めた（06粉(6)）。

日清は国内向け売約品を輸出用に振り向けることがあり（01粉(2)）、三菱はその「即時中止」を求めている（02粉(5)）。のちに、三菱による輸出が相当数量可能になると、内地向け売約品の転売・輸出を以後中止することを申し合わせているから（05粉(4)）、当初は国内の問題などに売却した小麦粉を、国内価格・輸出価格をみながら輸出に「振替」えていたものと思われる。

一手販売の開始により、両社出先の協力体制の形成があらためて課題となった。日清は仕向地三菱各支店の「努力覚悟」が最重要であるとし、支店側が提携を了解しているか「不安」であると、文書往復だけでなく当事者に徹底的な「協議」を要請し、三菱もそのような「会合」を催すことを検討している（01粉(4)）。ただし、協調がうまくいかない場合も生じ



ており、一九三〇年には大連・天津において日清出張員と三菱支店員の間に「協調ニ多少遺憾ノ点」があり、「懇談打合」が必要であると報告されている（<sup>1</sup>粉<sup>3</sup>）。

## （2）小麦粉生産

三菱は、日清製小麦粉の品質改善について注意を促し、日清もそれを受け入れている（08粉<sup>1</sup>）。さらに三菱は、有望な銘柄についても日清に提言した（11粉<sup>5</sup>）。また、日清側からは、「製出」が避けられない裾物の売込みに尽力するよう希望している（<sup>1</sup>粉<sup>6</sup>）。さらに、日清は不況対策として鶴見工場の経費節減つとめているとし、大連支店における諸掛の減額を三菱に申し出ている（<sup>2</sup>粉<sup>6</sup>）。

小麦粉の包装用袋については、日清は従来名古屋工場・館林工場で材料を購入し印刷してきたが、三菱の要求に応じ今後は鶴見工場でも対応し、香港支店の依頼にも応じるとしている（09粉<sup>3</sup>）。また、鶴見工場より三菱天津支店に送付した電動式袋口縫用ミシンを、三菱大連支店に転送して乱袋・欠斤対策とすることを申し入れ、同支店の研究課題となった（<sup>2</sup>粉<sup>6</sup>（7））。

## （3）各地における販路開拓

日清製小麦粉は東アジアや東南アジア地域の三菱各支店により販売されたが、打合会では各地の種々の問題が話し合われた。まず、植民地朝鮮における三菱の販路について協議され（06粉<sup>1</sup>）、三菱は、二七年夏には朝鮮向け引合が「漸ク発展」しはじめたが、朝鮮市場に対する「日清態度判然セヌ」と、日清の基本姿勢をただしている（07粉<sup>1</sup>）。同年末には日清から、出荷すべき銘柄の報告を受けている（10粉<sup>3</sup>）。

「満州」・華北に関しては多様な議題が提出されており、同地が有力な輸出市場であったといえる。まず、大連や南満州市場について、シアトル支店より北米小麦粉相場を知らせること（02粉(4)）、大連向け小麦粉を三菱大連支店に一任することなどを打ち合わせ（03粉(2)）、日本製粉と提携した三井の積極的活動を予想し大連方面における競争への対策を検討している（11粉(2)）。また、大連・営口・安東經由で南満州に輸出される数量や（23粉(2)(3)）、三菱大連支店と日清出張員との打合せによる満鉄沿線への委託品送付などを協議した（23粉(4)）。その後も日清から、営口での売込促進や（3粉(1)）、諸掛切詰め要望があり（1粉(5)、3粉(6)）、また三菱大連支店長からは定期社船利用の申入れがあった（3粉(5)）。次に、天津についても打合せ事項が多く、同地を流れる白河の泥土流出（04粉(2)）、三菱天津支店の引合に対する日清の売控え（1粉(8)）、天津地方に有望なブランドの報告（2粉(1)）、日清小麦粉の品質に対する市場の「好感」（2粉(2)）、輸入北米小麦粉の奥地搬出と奥地市場の有望性などであった（2粉(3)）。三菱天津支店は外国小麦相場のルーター電報を講読していないが、三井は講読して早期に情報を把握しているという日清の指摘もあった（2粉(5)）。また、大連・天津で発生した品質不良問題について、三菱が取り調べることになった（1粉(4)）。

ほかに、日清が三菱天津支店に依頼した外国為替思惑について（05粉(3)）、一定の裁量枠を認めること（12粉(1)）、天津支店のほか上海・香港・シンガポール・スラバヤ・青島の各支店でも「見込」があれば、輸出促進のため二、三カ月分の輸出数量引当に為替思惑することなどを協議している（13粉(1)）。また日清出張員からは、天津北東の秦皇島は有望な市場であるが、三井の小麦粉販売はまだ不振であるとの報告もあった（2粉(4)）。

華中については比較的打合せ事項は少ない。まず、上海については、日清製小麦粉が同地の取引所に上場できれば原料小麦買付のヘッジになると三菱に申し出ており、三菱上海支店が研究することになった（06粉(3)）。また、「鶴」印の売込みを三菱に要請し（11粉(4)）、青島市場については、「金魚」印の売込みについて協議した（10粉(2)）。

華南方面では、日清は、六〇〇万袋の北米小麦粉を輸入する香港市場を勢力圏とすることをねらい、北米粉と対抗するため三菱に「売込方尽力」を申し入れている（06粉(4)）。三菱は売込みのため「鶴」印ほかもう一種の連続的積送りを要望し、当分のうち「特別安値」での提供を要請した（11粉(1)）。また、三菱香港支店も、商品が途絶えないよう「月々連続」して搬送する必要があり、またブランドが認められれば有力問屋も漸次取引を希望するようになると報告している（26粉(1)）。そのほか、福州や華南向けの口銭率を協議し（12粉(3)、13粉(4)）、また三菱は香港・福州・汕頭・シンガポールなど新規「地盤開拓」する市場では価格の「勉強」が重要であると申し出ている（12粉(5)）。

さらに、中国市場全般については、日清粉のオフアールが高めであるという三菱の指摘（02粉(1)）、芝罘・竜口・秦皇島などの新販路開拓は三菱の「希望通り」とすること（15粉(1)）、宣伝方法として富籤・宣伝が有効であるとする日清の申入れがあった（15粉(2)）。

さらに南方については、販路拡大のための各種小麦粉の搬送（05粉(1)）、三菱スラバヤ支店・同シンガポール支店からの積送りの申入れ（08粉(2)、12粉(2)）、スラバヤ支店の搬送要請に日清神戸工場が応じないという問題（10粉(1)）、スラバヤ支店には特約販売店が一軒しかなく「心細い」という日清の指摘（09粉(2)）、ジャワとの取引に関する三菱スラバヤ支店への照会（15粉(3)）、日清の宣伝員派遣に関する協議（09粉(1)）、日清の「南支南洋視察」の報告（08粉(3)）、商標登録の問題（11粉(3)）、シンガポール向け代金の支払についてなど多様であった（12粉(4)）。そのほか、小麦粉輸出全般について、割戻制度などについての協議があった（13粉(2)）。

なお、輸出用小麦粉の商標・銘柄についても、しばしば打合せの対象となっている。販売地に適した銘柄が検討され、大連・天津には「鶴」「双蝠」、天津には「雪」などの銘柄が送られるほか、大連向けの「雪」に苦情があり、「双蝠」「鶴」「蟬」の品質には問題があつて売行が途絶し、唯一残る「紅緑三菱」印に同様のことがあれば「由々敷大事」となるとい

う大連支店長の報告があつた（3粉③）。各地の市場にはそれぞれ「好適」ブランドが必要とされ（1粉①）、安価でも利益の上がる銘柄が求められたのである（1粉②）。また、三菱は提携当初から日清に対し、北米小麦粉のように多様な品質の製造が可能か照会し、対応可能という回答をえている（02粉⑧）。また、同一品種に、複数の商標を付すことを提案し、日清は一種につき三マーク以内にしたいと述べている（04粉①）。

#### 四 おわりに

以上のように、日清・三菱による打合会の議事録からは、両社提携による小麦・小麦粉取扱の実務にかかわる協議・打合せ事項の全容が明らかになる。まず、北米小麦取扱については、全般的な両社の提携がはかられ、外麦産地や取引事情の調査と情報収集、諸般にわたる取引実務の協議がすすみ、それは一部「満州」小麦にもおよんだ。また、小麦粉についても同様に、実際の取引方法が取りきめられた。特に東アジア・東南アジア方面への日清製小麦粉輸出の具体的方法について、それぞれの市場に即して、両社経営陣のほか実務担当者により、出先の日清出張員や三菱支店の報告をふまえて協議されたのである。

両社の提携による北米・豪州小麦の輸入、および日清小麦粉の東アジア・東南アジア方面の輸出の展開については、本資料のほか、実務の展開にともなう諸書類もふくめた分析にゆずりたい。

注

- (1) 日清製粉株式会社社史編纂委員会『日清製粉株式会社史』(一九五五年)一七七頁、三菱商事株式会社『三菱商事社史上巻』(一九八六年)二二〇頁。なお、外国小麦には、「満州」小麦は含まれていない。

- (2) 三菱商事株式会社『立業貿易録』(一九五八年)三四〇頁。

- (3) 前掲『三菱商事社史 上巻』二〇九～二一〇頁。

- (4) 本資料群 (Record Group 131) は第一次世界大戦中の一九一七年、および第二次世界大戦中の四二年に米国政府に設置された敵性外国人財産管理事務所 (The Office of Alien Property Custodian) に関係する文書からなる。一九四一年七月、米国は在米日本資産を凍結し、日系企業の活動は停止され、開戦後資産は接収されたが、そのなかには大量の企業文書も含まれていた。ここに紹介する資料は、それらのうち三菱商事の小麦取引に関係するエントリー番号六一 (Entry#61) のうち、コンテナ番号四、七、九、一〇、一一 (Container#4,7,9-11) の各箱に収められている (本資料群については、『在米日系企業接収文書の総合的研究 平成18年度～平成20年度科学研究費補助金「基盤研究」(B) 海外学術調査」研究成果報告書(研究代表者: 上山和雄) 二〇〇九年三月、などを参照)。

- (5) オーストラリア国立公文書館シドニー文館にも、接收された三菱商事シドニー支店の書類が所蔵され、打合会議事録の一部が収められているが、米国立公文書館所蔵分の欠号を埋めることはできなかった。欠号の所在などに関する情報をお寄せいただきたい。
- (6) 前掲注(1)～(3)、および注(4)の関係資料による。
- (7) 前掲『日清製粉株式会社史』二二二頁。

〔資料〕

凡例

- 1 原則としてできるだけ原資料の記載のまま表記した。ただし、明らかな誤記・誤字は訂正した場合がある。  
また適宜読点・中黒を付した。
- 2 段落・改行は原資料にしたがつた。
- 3 漢字は常用漢字表にしたがつて表記し、原資料の文字が常用漢字表にないものは、正字を用いることを原則とした。
- 4 資料本文中の「」内は、注記・補記などの文字である。

第二回 一九二七年一月二二日

同文穀第四一号 同文 シアトル・シドニー・紐育・倫敦・上海・大連・漢口・新嘉坡・スラバヤ・青島・天津  
昭和二年二月一日

シアトル支店長 御中

穀肥部長 秋山豆禧

対日清製粉第一回打合会ノ件

日清製粉・三菱商事の提携と打合会

日清製粉ト我社トノ特殊關係成立ノ結果、両社ノ小麦・麦粉關係者毎月一回位打合会ヲ開キ取引上必要ナル事項ヲ討議研究シ、併セテ相互ノ意思疎通ヲ図ル事トナシタリ、而シテ是カ第一回例会ヲ去ル一月廿二日正午開催ノ際、別紙ノ通り談議致シタルニ付、御参考迄ニ御通知スル、要スルニ本会ノ主眼点ハ日清ト三菱ガ一心同体トナリ、此等製品ノ取引ニ当ル覚悟ヲ以テ、隨時諸問題ヲ討議スルニ在ル次第御了承相成度、今後例会ノ議事録ハ其都度可成貴方御参考迄ニ御一報スル事トスル

右御案内旁々 以上

### 日清／三菱第一回打合会

小麦ニ付テ

一、三井物産ガ満州製粉ヲ援助スルトノ風評アルガ、時節柄鈴木ト日粉、三菱ト日清ノ關係成立モアル事ナレバ、或ハ有リ得ル事ナルベク、日清・三菱両者共此点充分警戒ヲナシ、成行注視ノ事

日清加藤氏ノ意見ニヨレバ、満州製粉工場中北満二位スルモノハ、鉄道運賃ノ關係上外麦ヲ原料トスル製粉ハ引合ハザルベク、從而北満ノ工場ヲ南満ニ移転スルトカト云フ事ニ非レバ大シタ問題モ無カルベクト思フモ、兎ニ角成行注視致度ト

一、産地情報ハ、今後三菱一手ニ獲得スルヨリ外致方無キ次第ナレバ、特ニ欧州・アルゼンチン方面ノ情報獲得ニ努力スルコト、而シテ端境期引合閑散ノ時期ニハ情報兎角不足スルガ例ナルモ、此間ノ産地情報、特ニ米国小麦ノ作柄情報ハ最も重要ナルモノナレバ、引合ノ有無ニ不拘獲得ノ事

一、今後鶴見揚船腹ヲ引合フ場合ニハ、其揚高ガ千噸位ニテモ揚ゲ得ル様、予メ各船主ノ了解ヲ得置ク事

一、船腹ハ、本年度米国新小麦ヨリハ相当数量纏メテ引合ヒ、其運賃ハ其時ノ市況次第ニテ、全部予約スルカ成行ニ応ジ箇々ニ取極メルトカスル事、而シテ三菱船舶部ノ船建造ノ曉ハ是ヲ利用スル事

一、日清製粉ノ原料小麦需要高ハ出来ルダケ前広ニ三菱ニ通知シ、以テ好機ヲ捉ヘルニ便スル事

一、今後内地麦端境マデノ外麦需要予想ハ、内地小麦ガ尚関東・関西合計百五十万俵モアルヲ以テ、若シ此大部分ヲ日清製粉ニテ買付出来ルモノトスレバ外麦ハ殆ド必要ナク、唯配合用ニ加奈陀小麦・米国ウエスタンホワイトヲ、各々毎月二千屯モ買付ケバ足ル有様ナリ、尤モ内地小麦ヲ如此多量買付出来ルヤ否ヤ、又麦粉ノ輸出旺盛トモナラバ、ヨリ以上ニ外麦買付ノ要アリ

一、欧州向小麦ノ出来値ハ勿論、出来高（何屯又ハ何隻）モ随時入電ヲ取り度事

一、日清ノ北米出張員出発ヲ動機ニ、従来ノ品質証明書面記載ノ如キ銘柄ニヨル引合方法ニ依ラズ、Sub Classノ研究ヲナシ、品質ノ割合ニ値段安キモノ、日清ノ特殊粉ニ最適合ノ品種ノモノ等ヲ発見スル時ハ、此特殊ノSub Class又ハ産地名ニヨリテ小麦引合ヲ為シ買付得ル様充分研究ノ事、而シテ此場合北米積地ノ elevator ハ大体混合保管ナレバ、special bin ヲ予メ借受ケルトカ適當ノ手段モ必要ナルベク、其品種モ証明書面ヘ記入出来ズトスルモ、インボイス面其他適當ナル書面ニ唱ヒ後日ノ参考ニスル事、蓋シ現在ノ米国・加奈陀小麦ノ格付法ハ全国的ニ統一セルモノナルヲ以テ、實際ノ品質ハ各種出品毎ニ多少ノ相違アルモノナレバ、其好マシキモノノミヲ買付ケ、又ハ未ダ日本ノ市場ニ紹介セラレザル特殊ノ小麦ヲ引合フ様研究スル必要アルニ由ル、日清今度ノ出張員派遣ノ目的モ又此辺ニ重キヲ置クヲ以テ、此意味デ充分出張委員ヲ援助指導スル事

一、市況諸材料ノ蒐集ハ勿論ノ事、先行意見モ常ニ交換シテ、三菱ガ三菱ノ危険ニテ小麦ヲ買付ケル決心デ買付方針等



advice スルヨウ努力スル事

麦粉ニ付テ

一、覚書中細目打合せノ事項ハ後日書面往復スル事

麦粉代金ト融通金<sup>アキ</sup>□ノ相殺ノ件ハ、日清側ハ相殺セザル事ニ願度トノ事ニテ、三菱側ト意見合致セズ（其後大体日清ノ希望ヲ容ルニモ、三菱ハ必要ニ応ジ何時タリトモ相殺スル事ニ決定ス）

一、近ク麦粉輸出三菱一手扱ノ件ヲ、他ノ麦粉輸出商並ニ問屋へ公表スル迄ノ過渡期ニ於テハ、一応内地麦粉ヲ問屋へ売却シ、後日其問屋又ハ其転々買付先ガ是ヲ輸出ニ振替へ方依頼越セル際、特ニ之ヲ認メル事ニ三菱ノ承認ヲ得度、尚其数量ハ極メテ僅少ナリトノ事ニ付キ三菱側ニテ同意ヲ与フ

一、今後鶴見工場製品毎月二十万袋、其他神戸工場製品毎月十万袋位、三菱ニテ引受輸出スル事ニ努力願度様、日清ヨリ申出アリ

一、麦粉ハ仕向地ノ三菱支店ノ努力覚悟ガ最モ大切ナル次第ナルモ、今回日清ノ三菱提携ニ関スル成行ニ付テハ、果シテ充分了解シ居ルヤ否ヤ不安ノ念無キニ非レバ、此際文書ノ往復以上ニ適宜各店ノ当事者ヲ糾合シテ、麦粉引受輸出ノ事ヲ充分徹底のニ協議スル事ヲ日清側ヨリ懇請アリ、三菱側ニテ近ク如此会合ヲ催ウスル<sup>マツ</sup>事ヲ考慮スル事トセリ

麴ニ付テ

一、副製品麴ノ処分ハ甚タ重要ナルニモ不拘、從來兎角製粉会社自身之ガ研究ヲ怠リ勝ナリシガ、今後ハ輸入麴ノ情況ヲ一層適當ニ承知スル必要アルニ付、上海・漢口・天津・満州産麴ノ市況、情報隨時三菱側ヨリ日清へ供給スル事ニス以上

追而「麦粉ニ付テ」第二項ハ三菱ニテ大体同意ヲ与ヘタルガ其後實際問題トシテ具体的折衝中ナリ、又同末項記載三菱側ニテ会合開催ヲ考慮スル様記載アルモ、本件ニ付テハ事務打合せノタメ曰井事務ヲ大連・天津・青島・上海方面ヘ主張サセル事ニ決メタリ

第二回 一九二七年二月一八日

写 神戸・名古屋・シアトル・シドニー・上海・青島・門司・大連・香港・新嘉坡・スラバヤ・天津・紐育

昭和二年三月九日

穀肥部長 秋山昱禧

シヤトル支店長 御中

日清／三菱第二回打合会（二月十八日）

小麦ニ付テ

一、小麦買付ニ関スル細目協定ヲ作ル事（関係店ニハ追テ送附スル）

一、細目協定ノ内、特ニ重要ナル保険契約ヲ従来ノモノニ比シ一層有利ニ更改方、三菱ニ於テ至急交渉スル事

一、今後小麦需要量ハ今少シ前広ニ三菱ニ通知シテ貰ヒ度事、然シ本件ハ事実上内地小麦買付ノ多寡、並ニ限度協定外ナル輸出麦粉引合ノ繁閑ニ依リ非常ニ相違スベキヲ以テ、具体的数量ヲ明言スル事不可能ナリトノ日清側ノ話ナリ、然シ

目先トシテ加奈陀小麦ハ四ノ五積トシテ約二隻分位、米国小麦ハ四ノ五積式千屯位、濠州小麦ハ四月一隻、五月式隻分位入用ノ予定ナリトノ事

一、最近大西洋運賃ガ砂糖出廻リ、アルゼンチン小麦出廻リ等ノタメ昂騰シ、日本船モ相当船腹ガ大西洋ニ廻船使用セラレ居ル結果、太平洋ノ大型船腹ハ著シク減少シ、且近海ハ石炭活況ニヨル運賃暴騰ヲ来シ、結局濠州・米加小麦積取船腹運賃トシテモ目先相当引締ル模様ナレバ、日清トシテハ此際小麦トハ離レテ船腹ノミ早ク取極メル様ニシテハ如何トノ三菱側ノ意見ニ対シ、日清側モ同意シ期近物船腹ハ夫々シアトル・シドニー並ニ内地ニテ極力格安物搜索スルコトトス

# 小麦粉ニ付テ

一、最近二、三ノ例ヲ見ルニ、日清ヨリノ offer ハ兎角在支市場売行可能相場ヨリ甚ダ高シ、斯クテハ成約ノ見込虧キ故此点充分考慮セラレ度旨三菱ヨリ申出タル所、右ハ口銭問題トモ関係アル事ナルガ、今後ハ必ず市場相場ヨリ一、二銭安キ値段ヲ提出スルニ付、多量販売努力方切望スル旨日清側ノ申出アリタリ

一、鶴・双蝠等ハ上海粉ヨリ品質良好ナル為メ、原価モ割高トナリ兎角競争上不利ニ付、新タニ上海粉同等品トシテ鶴・双蝠ヨリ拾銭方下値位ニ売り得ルオシドリ印ヲ製出スル事トセリ、不取敢 *no bid* トシテ大連・天津へ各五千袋宛委託積出シ、今後此レヲ以テ大ニ上海粉ニ對抗スル決心ナルヲ以テ、三菱ニテモ其積リニテ売払メ努力方希望アリ、当方ニテハ早速其旨各場所へ通知ノ事トセリ

一、名古屋日清ヨリ天津三菱へ雪五千委託積出方申出タル処、天津ヨリハ置場所ナシトテ断リ来リタル由日清ヨリ話アリ、当方ヨリハ早速天津へ事情照会ノ事トセリ

一、米加粉ノ大連及天津粉値段絶へズ承知致度ニ付、産地ヨリ直接情報取寄セ方日清ヨリ依頼アリ、直チニ一週二回宛位

打電方シアトルへ申送ル事トセリ

一、内地向売約品ノ輸出振替ニ付キテハ当方ヨリ即時中止方申入レタルモ、日清ニテハ去年拾貳月中ニ既ニ參月限迄從來通りノ条件ニテ売約シ居ル關係上、既契約品迄遡ル事不可能ナリトノ事ニテ種々協議ノ上結局左ノ通り決定ス

イ、既約三月限迄ノモノハ輸出振替致方ナキ事  
ロ、然シ四月限以後ノモノ（勿論今後新契約ノ二、三月限モ含ム）ハ、日清ニ於テ絶対ニ輸出ニ振向ケザル事ヲ条件トシテ一般市場ニ売約スル事

ハ、然カモ、若シ内地買約先ヨリ不得已事情ノ下ニ輸出ニ振向ケ方申出アリタル際ハ、日清ハ直チニ此旨三菱へ移牒シ、同時ニ予定買約先ヘモ万事三菱ト相談スル様取計フ事、即三菱ハ或ル値段ニテ輸出希望問屋ヨリ買受ケ、海外三菱支店ヲ通ジテ買約スル事トス

ニ、山口ノ青島市場ニ於ケル金魚ノ販売ハ特別ノ事情アルニ付、今後ハ三菱ニテ直接山口ト交渉、此レ丈ハ可成三菱本店ヨリ山口ガ買入レ、從來通り青島ニテ直売シ得ル様三菱ニテ考慮スル事、山口ヘハ万事三菱ト相談スル様日清ヨリ通知スル事

一、委託積送品ハ從來本部・神戸・名古屋等ヨリ各個ニ隨時積出シ居リタル處、斯クテハ引合上統一困難ニ付、今後ハ万事本部ニテ日清ト打合せノ上、積地・數量・送附先ヲ決定シ、神戸又ハ名古屋積ノモノハ夫々両社当該支店ヘ通知シテ手配サセ度旨申入ニ対シ、日清ニテハ各地支店共研究ノ上回答ノ事トナレリ

一、口錢ノ件改メテ両社幹部ニテ協議ノ事

一、支那市場ニ於テ各種類ノ麦粉売込ノ必要アルガ、米加粉同様種々ノ品質製造可能ナリヤ否ヤ当方照会ニ対シ、日清ニテハ註文サヘアラバ如何ナルモノニテモ製造シ得ル由ニ付、当方ヨリ早速各場所ヘ通知シ希望ヲ照会スル事

麩ニ付テ

一、一週一回位宛ナリト上海・天津ヨリ麩市況、相場ニ関スル情報取寄セ方日清ヨリ依頼アリ、麦粉週電ト共ニ通知方上海・天津ヘ申送ル事トス 以上

第三回 一九二七年三月一六日

親展

写 大連・天津・青島・上海・漢口・香港・新嘉坡・スラバヤ・京城・神戸

穀肥部（秋山）印

シアトル支店御中

日清／三菱第三回打合会（三月十六日）

小麦事項ナシ

小麦粉

一、委託積送品ニ対スル offer ハ、日清ヨリ取消シ又ハ変更通知アル迄有効ノ事ト致シ度旨当方ヨリノ申出ニ対シ、日清ニテハ右差支ナキ事ニ承諾アリタリ

一、大連向ケ委託積送品ノ小口販売ハ、便宜弊大連支店ニテ取計方一任受ケ度旨当方ヨリ申出テタル所、日清ニテハ一口袋迄ノ小口引合ハ其都度値段ヲ照会スル事ナク、同社大連駐在員今村氏ト相談ノ上、適宜売約差支ナキ事ニ承認アリタリ

尚日清ヨリモ本件ニ関シ詳細今村氏申送ノ筈

一、各地○以後ノ協定諸掛内容ニ就キ話出デタルモ、本件ハ金利・缺減等ニ関シ協定困難ノ節アルニ付、先ツ次項ヲ考慮ノ上更ニ相談スル事トセリ

一、口銭ハ基本契約書ニ依リ實際売約値段ヲ基礎トシテ計算ノ事ト成リ居ルガ、斯クテハ

(イ) 売約ノ都度○値段ト共ニ倉渡又ハ貨車乗等ノ實際売値ヲ電報ニテ通知受ケザル可カラス

(ロ) 更ニ邦貨以外ノ貨幣建ニテ売約ノ場合ハ、換算為替レートヲモ同時ニ通知受クル必要アリ

(ハ) 又○以後諸掛ノ見積リニ付テモ、変更ノ都度一々詳細内容ノ報告ヲ要スルガ、兎角協定困難ナリ

(ニ) 且日清ハ原価計算書作成ノ為メ、当方ハ売報作成ノ為メ、頗ル煩雜ナル手数ヲ要スル為兎角整理ヲ遅延ナラシム

等ノ理由ニヨリ余分ノ電信料ト煩雜ナル手数ヲ要スルガ(何レモ主トシテ我社ニ取リテ)故ニ、今後ハ凡テ○ニテ打ち、我社口銭モ○売値ニ対シ計算シ、○以後ノ諸掛ハ可成切詰見積方我社ニ一任スル事トシテハ如何トノ希望出デタルガ、秋山部長帰任ヲ俟チ決定ノ事トセリ

一、天津ヨリ為替取極關係上、契約扱品ニ対シテモ特別ノ場合ハ入金後支払ノ事ニ除外例(予テノ打合ハ契約品ハ○引換ニ日清ト決済)ヲ求メ来レルニヨリ、此義承諾受ケ度旨申入レタル所、日清ニテハ常ニ代金回収遅延勝故、天津要求ニ応ゼラレス、寧ロ今後ハ委託積送品ニ対シテモ予メ金利(利率並ニ日数ニ就テ)ヲ協定シ置キ、實際売約ノ通知ニ接スルト同時ニ、其売約値段ヨリ右協定金利ヲ差引キ、当方ヨリ代金立替支払ヒ呉ル、様改正方懇談アリ、其ノ趣意ニハ何レモ同意セルモ、更ニ部長帰任ヲ俟チ相談ノ事トセリ 以上

#### 第四回 一九二七年四月一四日

穀第六号

写

日清製粉株式会社・大連・天津・青島・漢口・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・京城・台湾・神戸・名古屋・シヤトル・シドニー

穀肥部（秋山）印

シヤトル支店御中

日清／三菱第四回打合会（四月十四日）

出席者 日清 丸山氏・加藤氏・土屋氏

三菱 秋山・白井・塚原・西沢

小麦ニ付テ

一、凡テ二千屯以上ノ引合ハ、特ニ揚地ヲ決定シテ引合フ場合ノ外ハ、常ニ鶴見揚ノ option ヲ取ル様努力願度旨、日清ヨリ申出アリ

一、又小口ノ横浜揚契約品ヲ一般ニ取纏メ積取り、其数量ガ二千屯又ハソレ以上トナル時ハ、之レニ対シテモ亦当然鶴見揚 option ヲ取ル様積地ニテ努力願度旨、日清ヨリ申出アリタリ

右何レモ積地ト打合セ即時実行ノ事

小麦粉ニ付テ

一、天津支店ノ希望モアルニ付、同一品種ニ対シ出来ル丈多数ノ商標設定シタキ旨当方ヨリノ申出ニ対シ、日清ニテハ品線其他工場作業ノ関係上余り多クナリテハ困ル、セメテ一種参マーク以内ニ制限願度旨回答アリ、当方ニテ更ニ天津支店ト打合ス筈

一、天津白河泥土流出ノ件ハ其後工務局等ノ応急策ニ依リ最近ハ大分緩和サレ、天津ニテモ今月一杯運賃割増徴収見合セタル旨入報アルニ付、更ニ嚴重船会社ト交渉方日清ヨリ希望アリ、右ハ当方ニテモ天津支店ヨリノ通知ニ基キ目下嚴談中ニ付何分ノ義追テ回答スル事トセリ

一、予テ当方ヨリ申入レ置キタル日清各工場製品引合統一方ニ付キテハ日清ニテモ同感ナルカ、最近同会社支店長會議ノ結果ニ見ルモ俄ニ決定シ難キ事情アリ、何レ其内必ス何レカニ具体化スル様考慮スルニ付、暫ク従来通り取計度旨回答アリタリ 以上

第五回 一九二七年五月四日

穀第一九号

写 日清製粉株式会社

大連・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・京城・台灣・神戸・名古屋・シアトル・シドニー

シアトル支店御中

穀肥部（秋山）印

日清／三菱第五回打合会（五月四日）

出席者 日清 加藤氏・山鹿氏・今村氏・土屋氏

三菱 秋山・木本・坂井・臼井・塚原・西沢

小麦ニ付テ事項無シ

日清製粉・三菱商事の提携と打合会



小麦粉ニ付テ

- 一、南支南洋方面へノ販路拡張ノ為メ、實際多少ノ犠牲ヲ払ヒテモ、各種製粉相当数量引続キ委託積送致度旨当方ヨリ申出テタル処、日清ヨリハ可成希望通り取計フ旨、並ニ同社ニテモ近ク同方面へ調査員派遣ノ計画アル由話アリタリ
- 一、天津支店申出ノ新マーク天壇及指南<sup>（付明）</sup>使用方ニ就キ申入レタル処、直チニ日清ノ承諾アリタルニ付、即時天壇ヲ鶴ノ代用マークニ、指南ヲ鴛鴦ノ代用マークニ使用スル事ニ打合セタリ
- 一、天津支店申出ノ短期間為替思惑ノ件ニ付テハ日清今村氏ヨリモ事情説明アリ、結局日清ニテハ商談取極メノ前、又ハ後一日間丈同支店裁量ニヨリ右思惑差支ナキ旨承諾受ケタリ
- 一、三菱ニテ相当数量輸出可能ト成リタルニ付、内地向売約品ノ転売輸出ハ今後中止ノ義申入レタル所、日清ヨリハ今後絶対ニ中止スルハ勿論、夙ニ其方針ナリシ旨確答アリ、即チ本件今後ハ第二回打合セ通り実行ノ事ニ打合セタリ
- 一、日清各工場製品引合統一方ニ就キ再ビ討議シタルガ、本件ハ結局販売店ノ利益ヲ主トスベキニ付、方針トシテ天津其他ノ申出通り取計フ事ニ決定、但シ実行期並ニ引合区域確定其他詳細ニ就テハ、更ニ打合セ取極ノ事トセリ 以上

第六回 一九二七年六月九日

同文穀第四三号

同文 日清製粉株式会社

大連・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・京城・高雄・神戸・名古屋・沙都・シドニー

昭和二年六月十一日

穀肥部（「木本」印）

シヤトル支店 御中

日清／三菱第六回打合会報告（六月九日）

出席者 日清 加藤氏・山鹿氏・土屋氏

三菱 秋山・木本・臼井・塚原・西沢・池田（上海支店）

小麦二付テ

一、鶴見揚小麦二対スル日清振出手形ハ、實際荷役ガ横浜ニ於テ行ハル、ト鶴見ニテ行ハル、トニ不拘、本船横浜入港日ヲ以テ起算日トスル事ニ打合セタリ

一、鶴見揚小麦ノ一部又ハ全部ガ都合ニヨリ横浜ニ於テ荷揚セラル、場合ニハ、鶴見・横浜別揚高判明次第、日清ヨリ三菱ヘ通知スル事、而シテ此場合浜揚分ニ対シ船主ヘ支払フベキ割増運賃（鶴見揚運賃ガ浜揚運賃ヨリ割引アル場合）ハ、其都度適宜日清ヘ請求スル事トシタリ

一、前項ニ関聯シテ、最近入港セル山下汽船春祥丸・陽元丸（以上加奈陀小麦）・寿洋丸（濠州小麦）ノ例ヲ見ルニ、船主ハ予メ鶴見揚トシテ船腹ヲ取極メ又積付ケタルモノ、一部又ハ全部ヲ ship's draft ノ深キヲ理由ニ、横浜ニテ荷揚セルタメ、日清ハ事実上鶴見揚トシテノ実効ヲ奪ハレ不勘迷惑ヲ蒙リタリ、就テハ今後鶴見揚小麦ト他港揚小麦トガ積合セトナル場合ニハ、出来ルダケ関西ノ港ヲ先航トシ、鶴見ヲ最後ノ寄港地トスル様本船航路ヲトラストカ、鶴見揚ガ先航トナル場合ニハ積付ケヲ巧妙ニシテ、 ship's draft ヲ理由ニ鶴見揚荷ノ一部ヲ横浜ニテ解取りセラル、ガ如キ事無キ様、積地ニテ充分船主側ト打合ハス事ニ吾社ニテ努力スル事トセリ（目下ノ事情ニテハ、鶴見日清 whatt へ本船ヲ着ケルニハ、干潮時ト雖モ draft ヲ二十二呎ニスレバ安全ナル模様ナルモ、寿洋丸船長ノ如キハ二十呎ニ達スル迄鶴見揚

荷ヲ横浜ニテ解取セリト)

小麦粉ニ付テ

一、神戸積出大連送り雪印品質苦情ノ件ニ付テハ、日清ヨリ「結局日清神戸工場ニテ多少ノ手違ヒアリシニ起因スル模様ニ付、今後ハ充分注意サス可シ」トノ挨拶アリ、尚本件処理方法ニ付テハ万事両社神戸支店ニ一任シ、大連ト打合解決セシムル事ニ打合せタリ

一、朝鮮ニ於ケル三菱販路ノ件ニ付テハ、其後日清本社ニテモ過日ノ支店長会議席上種々協議シタルガ、結局京城及仁川附近ニ対スル三菱売込ミハマークノ如何ニ不拘斎藤トノ關係上面白カラザルニ付、本件今暫ク見合セアリ度旨日清ヨリ申入アリタリ、但シ北鮮及釜山附近売込ミハ一向差支ナキニ付、精々引合アリ度トノ事

一、上海交易所ニ日清小麦粉上場出来ルナラバ、原料小麦買付ニ対スルヘツヅ上頗ル面白キ事ニ付、何トカ研究アリ度旨日清ヨリ申出アリ、本件早速上海ヘ送ルト共ニ、万事池田氏ニモ依頼シ充分尽力願フ事トセリ

一、米加粉ノ香港向輸出、年間六百万袋内外アル由ニ付、今後ハ是非香港ヲモ日清粉ノ勢力圈内ト致シ度、差当リ鶴印ヨリ上質ノモノニテ、而モ値段割安ノモノヲ造リ、南清方面ニテ米加粉ト對抗スル事トシ目下試験中ナレバ、右完成ノ上極力同方面ヘ売込方尽力アリ度旨日清ヨリ申入アリタリ

一、東京及神戸ヨリノ Order ニ付キ常ニ一定ノ統一ナク、為メニ輸入地ニ於テハ取捨ニ迷ヒ、元扱店ニ於テモ無駄ノ電信往復不尠ニ付、予テ宿題ノ引合統一ニ就キ熟考願度旨三菱ヨリ申入レタル処、日清ニテモ同感ナレ共、日清社内ノ事情アルニ付茲暫ラク辛抱願ヘバ、可成早急適當ノ方法ヲ講ズ可シトノ事ナリ

一、大連安恵棧ノ口銭貳錢ハ、此際甚ダ過大ノ様思ハル、ニ付壹錢位ニ願度、若シ如何ニシテモ貳錢支払ヒノ要アラバ、壹錢以上ハ三菱ニテ負担アリ度旨日清ヨリ申出アリ、右ハ日清ノ負担スベキモノト思フモ一応大連支店ト相談スル事ト

セリ 以上

第七回 一九二七年八月一八日

同文穀第九三号

同文 日清製粉株式会社

大連・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・京城・高雄・神戸・名古屋・沙都・

シドニー

昭和二年八月十九日

穀肥部〔木本〕印

シアトル支店 御中

日清／三菱第七回打合会報告（八月十八日）

出席者 日清側 加藤氏・山鹿氏・板倉氏

三菱側 秋山・塚原・西沢・塚田

小麦ニ付テ

一、満州小麦ノ取引条件

本年ハ満州小麦豊作ノ為南満・北満小麦相当量内地へ輸入サルベク、特ニ加奈陀小麦相場格高ナルヲ以テ、之ガ代用トシテ北満小麦ノ輸入数量ハ相当ニ昇ルベク、或ハ加奈陀・満州物半々位トナルヤモ不被計、而シテ此レガ引合ハ日清・三菱ノ各地支店間ニテ行ヘルモ、其取引条件ヲ統一スル必要アルベク、依テ日清ニテ八月末ノ支店長会議席上此点ニ付

協議シ、結果ヲ三菱側へ移牒ス可キヲ以テ、其節ハ曩ニ兩者間ニ交換セル北米・濠州小麦取引ニ関スル細目協定ト同様ノモノヲ作成スル事トセリ、尚値段ノ点ニ付テハ直木其他ノ競争者ニ敗ケザル様精々勉強スル様、特ニ日清側ノ希望アリタリ

一、濠州出張員ニ付テ

人選ハ未タ決セザルモ、兎ニ角十月中位ニハ内地ヲ出發セシムル予定ナリ

一、委託売買ニ付テノ受託主（三菱）ノ責任ニ付テ

権限外ノ受託主ノ行為ハ勿論、其動機ガ委託主（日清）ニ対スル好意ニ基クト雖モ、其結果ガ委託主ニ不利トナル時ニ、之ヲ全部委託トシテ委託主ニ持込マルル事ハ甚タ当惑スルヲ以テ、出来得ル限リ事前ニ兩者打合セヲナシ行動スル事ニ日清ヨリ希望アリ、当方モ出来得ル限リ事前承諾ヲ得ル事ニ承知セリ

小麦粉ニ付テ

一、朝鮮向引合漸ク發展シ始メタル今日、尚同方面引合ニ対スル日清態度判然セヌ様ニテハ甚ダ面白カラザルニ付、此際何トカ確然タル方針取極メ方申入レタル処、下旬ノ支店長會議ニ於テ何分ノ義決定通<sup>（アキ）</sup>□スベシトノ事ナリ

日清ヨリ営口及安東向引合是非共至急具体化願度旨希望申出アリ、本件目下着々準備中ナルガ、尚至急取計フ可キ旨返事シ置アリ 以上

第八回 一九二七年一〇月一三日

同文穀第一八号

同文 日清製粉株式会社

大連・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・京城・高雄・神戸・名古屋・シアト

ル・シドニー

昭和二年十月十五日

穀肥部長 秋山豆腐 (「木本」印)

シヤトル支店長 御中

日清／三菱第八回打合会報告 (十月十三日)

出席者 日清側 丸山氏・加藤氏・山鹿氏・土屋氏・板倉氏

三菱側 秋山・木本・前島・塚原・西沢

小麦ニ付テ

一、日清ハ従来満州小麦ヲ直木・川口等三菱外ノ商人ヨリ買付ケタルモ、此等商人買付品ト同等品ナラハ三菱ニテモ格安ニ買付ケ得ル事モ既ニ略々証明サレ、又最近直木經由名古屋日清入小麦ノ品質ニ付苦情起レル事実モアリ、旁々此際他社ヨリノ買付中止方当方ヨリ申入レタルニ対シ、日清側ハ満州物ニ限り二、三流商人ヨリ買付クル方甘味アル様思ハレ、又当地川口經由買付東部線小麦モ未着ノ事ナレバ、果シテ其品質劣等ナルヤ見届ケタル上ニテ更メテ考慮シ度ト懇望セリ、依テ今暫ク成行ヲ見ル事トセリ

小麦粉ニ付テ

一、予テ懸案ノ品質改善ニ就テハ此上共注意願度旨当方申出ニ対シ、日清ニテモ精々勉強シ当方期待ニ反カザル旨回答アリ

一、スラバヤ支店ヨリノ申越モアルニ付、今後便船毎ニ少数宛南洋各地向連続的ニ委託積送方当方申出ニ対シ日清ノ同意

アリ、早速実行ノ事トセリ

一、日清土屋氏ヨリ南支・南洋視察報告アリ、同時ニ左ノ如キ当方ニ対スル希望申入アリ

イ、スラバヤ・新嘉坡両市場ニ今少シ特約店ヲ増設スル外、バタビヤ・サマラン乃至メダン等 Java 及スマトラ島ノ諸市場ニモ、夫々適當ノ取引先ヲ選定サレ度

ロ、消費地ノ嗜好ニ適合スル種々マークヲ考案シ、各特約店ニ夫々専用マークヲ使用セシメ販路拡張ニ精進スル事  
ハ、品種ハ濠州粉及上海粉ノ中間、即チ現在ノ二等粉ヨリ少シク上質ノモノヲ以テ南洋ノ地盤ヲ開拓スル事

ニ、新嘉坡ハ、ヤリ様ニヨリ将来多量輸入ノ見込アル故、出来ル事ナラ専任ノ係員ヲ設ケラレ度事

右早速各支店トモ打合セノ上、日清希望実現方考慮致ス可キ旨返事シ置ケリ 以上

第九回 一九二七年十一月二二日

同文穀第五七号 同文 日清製粉株式会社

大連・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・京城・高雄・神戸・名古屋・シアトル・シドニー

昭和二年十一月廿六日

穀肥部長 秋山昱禧 (「本本」印)

シヤトル支店長 御中

日清／三菱第九回打合会報告 (十一月二十二日)

出席者 日清側 丸山氏・加藤氏・宇野氏・田中氏・山鹿氏・土屋氏

三菱側 秋山・寺田・渡辺・前島・塚原・岩崎・西沢

小麦ニ付テ

一、北滿小麦ニ関スル日清対三菱各地支店間ノ取引条件ヲ始メ、我社条件ト一般地場商人ノ条件トモ、何レモ其ノ間多少ノ相違アリテ不便ナレハ、此際はヲ画一スル必要アリ、依テ次ノ諸点今後実行ノ事ニ打合ス  
品質 (イ) 一二五ゾロ標準、一二三ゾロ以下排却ノ事

(ロ) ゴロハ産地検定 Grain ノ事

重量 揚地改貫渡、但シ缺減一%迄容赦(即チ此場合ハインボイス面数量ニ拠リ代金ヲ受授ス) 一步以上ハ三菱負担ノ事  
包装 新麻袋又ハ一空麻袋三菱勝手ノ事

単価 (イ) cft 百斤建

(ロ) 一二五ゾロ以上値増ナシ、以下一ゾロ百斤五錢引ノ事

代金決済 本船揚地入港日起算十五日目払手形ニヨリ決済ノ事

小麦粉ニ付テ

一、南支・南洋向大量輸出計画ノ第一歩トシテ、日清ヨリ可然宣伝員派遣サレテ見テハ如何、相当効果アルヘキモノト思フト申出テタルニ対シ、日清ニテモ同感ニテ既ニ先般来ニ名位駐在セシメタク折角考慮中ナルニ付、其内何分ノ義具体的ノ御返事可致トノ事

一、スラバヤニテハ特約販売先一軒ノミノ様ナルカ、其カ仮令有力ナリトスルモソレ丈ニテハ心細ク、月額十五万袋程度輸出計画ニハ、如何シテモ今四、五軒増加方日清ヨリ希望申出アリ、目下ソレソレ画策中ノ旨返事シ置ケリ



一、從來包装用袋ハ名古屋及館林ニテ材料購入及ヒ印刷シ居リシ關係上不便ナリシモ、今度鶴見工場ニモ設備シタルニ付、今後ハ三菱ノ要求ニ応シテ便宜取計ヒ得ヘク、從テ予テ香港支店申出ノ買手商号等挿入モ容易ニ出来ル事トナリタル旨日清ヨリ申出アリ、就而ハ本件早速香港ト打合セノ事ニセリ 以上

第一〇回 一九二七年二月一三日

同文穀第七三号

同文 日清製粉株式会社

大連・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・京城・高雄・神戸・名古屋・シアトル・シドニー

昭和二年十二月十三日

穀肥部長 秋山豆禧

シアトル支店長 御中

日清／三菱第十回打合会報告（十二月十三日）

出席者 日清側 丸山氏・森田氏・加藤氏・山鹿氏・土屋氏

三菱側 秋山・木本・前島・塚原・西沢

一、小麦ニ付テ

イ、Canadian Feed Wheat ハ名古屋ニ於テハ無税輸入ヲ許サレ、他港ニ於テハ課税セラルル模様ナルカ、之ハ全国的ニ

何レニカ統一セサレハ種々日清トシテモ利害関係ヲ生スルヲ以テ、大蔵当局へ可然折衝方日清ノ希望アリ、右ハ目下横浜税関意向問合セ中ナルヲ以テ、其ノ返事ヲ待ち交渉方考慮ノ事ニ打合ス

ロ、満州小麦ハ大体ニ於テ関東・関西共ニ、三流商人ノ方カ百斤約拾銭方安値ヲ唱へ、自然日清トシテハ三菱へ一%ノ口銭ヲ支払フモ、尚且他商ヨリ買付クルヲ有利トスル事多キヲ以テ、今後引続キ他商ヨリ買付クル事アルモ不悪トノ申出アリ、当方ハ極力之レカ原因ヲ研究中ニテ、特ニ寺田氏帰任次第更ニ産地事情取調へ適當方法ヲ講スルヲ以テ、今暫ク値開キアルモ我慢願度旨返事ス

ハ、シアトル支店ヨリノ希望トシテ、引合當時産地ノ事情ニヨリ日清指値ヨリ屯五仙乃至十仙高ク買付ケ得ル余地ヲシアトル支店へ許与セハ、買付ヲ容易ナラシムル処多キニ付、右ニ対シ日清ノ同意ヲ求メタル処、市況先高ト先安ニヨリ一概ニ言ヘス、ソレハ当地ニテ塩梅スル事トシ、結局従来通り指値以下ニテ買付ケノ事ニ致度トノ返事アリ其事ニ決定ス

ニ、シアトルニ於テハ、小麦代金ヲ売手ヘ支払フ時ト、日本向輸出手形ヲ取極ム時トノ間ニ、常ニ一日乃至五、六日ノ金利ヲ必要トスルヲ以テ、此ヲ一定額ニ協定シ買付値段ニ加算シ得ル様日清ノ同意ヲ求メタル処、趣旨ニハ大体賛成ナルモ果シテ幾何カ適當ナリヤハ考慮ノ余地アル故、確答ハ数日待ツヘキ様日清ノ希望アリ、追テ何分ノ協定スル筈一、小麦粉ニ付テ

イ、神戸日清森田氏ヨリ、スラバヤ支店ニテハ本部ニ対シ毎船式千袋以上委託積送申出居ルニ不拘、神戸ヨリ委託積送依頼ニ対シテハ往々見合方返事越スハ何故ナルヤノ照会アリ、多分一時二同一乃至類似品質ノモノニ付、多数マークヲ以テ売払ムル事不得策ニ付、先ツ鶴ヲ売払メ次ニ金魚ヲ取扱ハントスルスラバヤ支店ノ方針ヨリ出タルモノナルヘシト返事シ置キタルカ、更メテ実情問合セノ上適策講スル事

口、金魚ノ青島山口引合ハ十二月一杯ニテ取止ノ事ニ日清ト打合セ置キタルカ、表向キ山口ニ対シ中止方申出スルモ面  
白カラサル故、今後ハ値段ノ手加減ニ依リ、事実上山口ノ取扱不可能ナラシムル様取計フ事ニ打合セタリ  
ハ、朝鮮向移出ノ件ニ付、斎藤トノ交渉模様如何トノ当方ノ問合ニ対シ、結局当分如何トモ取計ヒ兼ヌルモ、京城・仁  
川・木浦・群山以外ハ、鶏印ヲ除ケハ総テノマーク引合差支ナキ旨日清ヨリ回答アリ 以上

第一一回 一九二八年二月一六日

同文穀第八二号 同文 日清製粉株式会社

大連・ハルピン・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・京城・高雄・神戸・名古屋・シアトル・シドニー

昭和三年二月十七日

穀肥部長 秋山昱禧〔木本〕印

シアトル支店長 御中

日清ノ三菱第十一回打合会報告（二月十六日）

出席者 日清側・加藤氏・宇野氏・山鹿氏・土屋氏・興水氏

三菱側 秋山・木本・塚原・西沢

一、小麦ニ付テ

（イ）委託買付約定書ハ最近東京ニ於テ新シキ形式ノモノヲ使用セル処、其特約条項中ニハ両社間ニ取替セタル覚書ノ趣

旨ト矛盾スル箇所アルヲ以テ、可然訂正方日清ヨリ申入アリ、依テ近ク別ニ簡單ナル form ヲ作成使用シ、既ニ発行セ  
ルモノニ付テハ覺書ト抵触スル特約事項ヲ取消ス旨記述セル書面ヲ交換スル事ニ打合ス

(ロ) シアトル支店扱米加小麦ノ協定諸掛ヲ至急取極メル要アル処、日清ニテハ此点ニ付シアトル駐在員ニ照会中ナルヲ  
以テ、近ク其返事来ルヲ待ツテ具體的ニ協定シ度トノ事ニテ、当方之ニ同意ス

(ハ) 北滿州小麦ゾロ低下ニ付テハハルピン出張員来信ノ次第モアリ、一二五ゾロ以下百斤一ゾロ五錢宛値引ヲ二錢替値  
引ニ變更方当方ヨリ申入タル処、日清ニテハ近ク滿州物入荷ヲ控ヘ旁今後左程大量ヲ需要セズ、且一二五ゾロ以下ニテ  
ハ同社特製品ニ使用出来ズ滿州小麦使用ノ目的ニ合致セザルヲ以テ、条件ヲ變更セズ精々一二五ゾロ以上積出方希望ア  
リ

一、小麦粉ニ付テ

(イ) 香港支店ヨリノ申越モアリ、当地及南清地方売込ノ為メ鶴印外一種位少量宛ナリト連續的ニ委託積送シ、値段モ亦  
当分ノ間特別安値提供方申入レタル処、每船約五百袋内外積ム事トシ、承諾ノ旨日清ノ返事アリタリ

(ロ) 日粉引受後予想サルベキ三井ノ積極的活動、殊ニ大連方面ニ於ケル競争対策トシテ、予メ得意先ニ大体ノ責任數量  
ヲ割當、ソレ以上ヲ取扱ヒタルモノニ対シ一定ノ割戻シヲ為サントスル大連支店申出件ニ付テハ、事相當重大ナルニ付、  
日清ニテモ更ニ考究スル一方、目下当方ヨリ折返シ照会中ノ同支店具體案送附ヲ待チテ、更ニ日清ト慎重協議スル事ト  
セリ

(ハ) 南洋向旭・鶴等ノ引合ノ該商標登録問題ノ為メ行悩ミノ状態ナルガ、折角今日迄売込タルモノヲ中止スルモ不利益  
ナルノミナラズ、差当リ具體的ニ問題ヲ惹起スル事モ可無之ニ付、引続多少宛積出度旨日清ヨリ申出アリ、同社意見通  
リ取計ノ事トセリ

(三) 引続キ上海向引合、殊ニ鶴印ノ売込尽力方日清ヨリ申出アリ、上海トモ協力極力有利売込方努力ノ事トス  
 (ホ) 予テ申入置キタル鶴印ヨリ五錢乃至十錢方上等ノモノ、及鶴ト緑蟬ノ中間ノモノ製出方ニ対シテハ、日清ヨリ濠州小麦ノ入荷スル迄待ツ様トノ返事アリタリ 以上

第二二回 一九二八年四月二二日

同文穀第二〇号

同文 日清製粉株式会社

大連・哈爾濱・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・シドニー・京城・釜山・高雄・基隆・神戸・名古屋

昭和三年四月二十一日

穀肥部長 秋山豆禧(「秋山」印)

シアトル支店長 御中

日清ノ三菱第十二回打合会報告(四月十二日)

出席者 日清側 加藤氏・山鹿氏・土屋氏・深沢氏・板倉氏

三菱側 秋山・木本・和田・塚原・谷口・須藤・西沢・塚田

一、小麦粉ニ付テ

イ、天津支店ニ於テ、日清ノ依頼ニ依リ思惑為替取極ムルニ当リ、指定率ト僅少ノ違ヒニテ出来ザル事間々アリ、特ニ騰勢急ナル場合不利不尠故、今後ハ指定率ニテ出合ワザル場合、四分ノ一兩範圍内迄ハ同支店ノ裁量ニ一任願度旨申

出デ、日清ノ承諾ヲ得タリ

ロ、暫ク中絶致シ居ルニ付、近々再ビスラバヤ及新嘉坡へ連続シテ委託品積送方申入レタル処、同方面向ハ常ニ相当數量用意アルニ付、何時ニテモ送附スベキ旨日清ヨリ返事アリタリ

ハ、福州向輸出口銭ノ義、改訂基本契約確書ニ依レバ「香港（福州、廈門、汕頭ヲ含ム）以南云々」ト相成居ルニ依リ、当然二分タルベキ筈ナルガ、今日迄上海支店ニテ取引シタルモノニ対シ、上海<sup>SHANGHAI</sup>仕切りヲ準用シタル為メ、一分五厘適用ノ事ト相成居ルニ付、今後ハ規定通り二分ト致度旨申入レ、尚右ハ結局浙江省迄ハ一分五厘、福建省以南ハ二分ノ事ニ決定ノ外ナカルベキ旨話合ヒタルモ、其決定ハ後日ニ留保セリ

ニ、予テ懸案中ノ新嘉坡向委託品売約後ノ代金支払日計算方ニ関シ、本件ハ予テ当方申出通り、十日目ニ決定願度旨申入レタル所、日清ヨリハ大体差支ナシト思フモ目下神戸ト打合中ニ付、其結果ニ依リ何分ノ義確答スル旨回答アリタリ

ホ、香港・福州・汕頭・新嘉坡等新規ニ地盤開拓ヲ要スル地方ニ対シテハ、何ト云フテモ値段ヲ勉強スル事第一、且絶對必要ニ付、他市場ノ売行値段ニ不拘、当分ノ間ハ特ニ安値引受願度旨申出タル処、日清ノ快諾アリタリ

小麦ニ付テ

一、Austral Form Charter Partyニ規定セル Commission to Charters（通常一・五%）ハ従来日清へ全額払戻シタルモ、本船代理店事務煩雜ナレバ、此ノ半額ニテモ三菱側ニテ取得致度提言セル処、日清ハ充分考慮シ後日決定スベシト回答アリ

一、シアトル支店引合北米小麦協定諸掛決定ニ関シ、当方ハ屯参仙見当ヲ主張セルニ対シ、日清ハ出来得ル限り正確ヲ期スル必要アレバ、實際ノ手形金額ニ対シ予メ協定セル日数違利率ニヨリ金利ヲ算出シ、日清負担ト致度旨希望アリ、近

日何レニカ決定ノ事トス

一、北滿小麦ノ缺斤最近以外ニ多キモノアリ、為メニ屢々沓歩ノ口錢ヲ殺ガルルコトアルヲ以テ、此際新麻袋インボイス面渡ニ変更方申入レタル処、日清側ノ承諾ヲ得ス從來通りトス

一、小麦委託買付契約高ノ新フォーム出来上レルニ付、今後使用ノ事トス

一、Austral Form Charter Partyニ拠ル袋入濠州小麦ノ鶴見揚ニ付テハ

(イ) 鶴見揚諸費用ガ意外ニ掛ル事

(ロ) 船長ガ鶴見ノ荷揚慣習ヲ熟知セザル事

(ハ) 屢々船長船<sup>(船)</sup>轉スルニ不拘 berthハ僅ニ一個ヨリナキ事

等ノ理由ニヨリ屢々船長トノ間ニ disputeヲ生スル事アリ、是レ或ハ傭船契約書条項ノ不備ニヨルベケレド、又鶴見揚ガ広ク外国船主間ニ紹介セラレ居ラザルニヨルモノニテ、内外船主ガ喜ンデ鶴見ヘ船ヲ入レル迄ニハ尚相当ノ時日ヲ要スベシ、故ニ茲暫クハ鶴見揚ニ付 dispute起ルモ、其費用負担ニ付日清側ニテモ相当讓歩ノ余地ヲ存スル様希望セルニ對シ、日清ニテハ其時ノ事情ニヨリ善処スルヨリ致方無ク、出来得ル限り寛大ニ取計フベシト回答アリ

第一三回 一九二八年五月一七日

同文穀第四〇号

同文 日清製粉株式会社

大連・哈爾濱・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・シドニー・京城・釜山・高雄・基隆・神戸・名古屋

昭和三年六月二日

穀肥部長 秋山昱禧（「木本」印）

シヤトル支店長 御中

日清／三菱第十三回打合会報告（五月十七日）

出席者 日清側 加藤氏・宇野氏・田中氏・山鹿氏・土屋氏・板倉氏

三菱側 秋山・木本・前島・塚原・西沢・塚田・井上（香港）・須藤（新嘉坡）

一、小麦粉ニ付テ

イ、為替思惑

輸出促進ノ手段トシテ、天津以外ノ各地ニ於テモ為替思惑シテハ如何ト懸慮セルニ対シ、日清ヨリ上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・青島共見込アラバ二、三ヶ月分ノ輸出数量引当為替ヲ思惑スル意向ナル旨返事アリ

ロ、割戻制度

販売増進ノ一手段トシテ割増制度ヲ採用実施致度旨当方希望申入レタル処、本件ハ重大問題ニ付、篤ト研究ノ上後日確答可致旨返答アリ

右ニ付去ル廿九日日清ヨリ「内地販売ニ於ケル実例ニ徴シ割戻制度ハ実益少キ故、可成見合度、代リニ販売奨励方法トシテ富籤又ハ福引ノ如キ一時的ノモノナレバ賛成ニ付、可然具体案作成ノ上申出願度」回答アリ

ハ、各地割当数量

鶴見工場増産設備完成後ノ各地向輸出货量割当ニ関シ種々打合セタルガ、要スル二六、七拾万袋以上ヲ予定数量トシ、追而日清ヨリ同社希望各地割当予定数量表送附アル筈



## 二、南支向口錢率

前回ノ打合會ニテ懸案トナリ居リシ福州向ノ口錢率ハ、支那省別ニ依リ浙江省マデハ壹分五厘、福建省以南ハ貳分ノ事トシ、尚右ハ取引經由地ノ如何ヲ問ハズ結局ノ輸入仕向地ニ依ル事ニ打合セタリ

ホ、南洋市場ニ於ケル濠州粉トノ對抗

スラバヤ支店ヨリノ申越モアリ旁当方ヨリ「日清ハ南洋市場ニ於テ何処迄モ濠州粉ニ對抗シテ、値段ニ不拘今後共連續的供給ノ意アリヤ否ヤ」照會セルニ對シ、同社ヨリ必ズ連續供給可致ニ付、極力對抗売込アリ度向返事アリタリ

## 二、小麦ニ付テ

## (一) 鶴見ノ小麦荷揚能力

鶴見工場ハ近ク能力ヲ激増運轉セラル、事トナリタレバ、外国小麦積取船ノ入着スルモノ從來ニ倍加スベシ、然ルニ現狀ニテハ Berth 一個ニシテ、然モ吸上能力不充分ノタメ兎角本船輻輳シ、其都度滯船又ハ横浜舁取リノ問題ヲ生ズル有様ニテ、船主ノ印象余リ面白カラズ、就テハ Berth ヲ殖ヤス事ハ不可能ナレドモ是非共吸上機械設備ヲ倍加シ、且ツ Spout ヲ移動式ニシテ荷揚能力ヲ著シク増加スル要アル事ヲ力説セルニ對シ、日清ニテハ予而本件種々画策中ニテ愈々本年一杯ニハ設備ヲ改良シ、船主ノ期待ニ背カザルダケノ荷揚能力ヲ實現スベシトノ回答アリタリ

## (二) 米加小麦ノ協定金利

シアトル支店買付米加小麦ノ協定金利ハ、予テ日清並ニシアトル支店トモ打合セタル通り、左記ノ要領ニテ新規売約品ヨリ実行スル事ニナレリ

イ、米加小麦契約品ニ對シ契約値段ノ外ニ手形利率ニテ二日半ノ金利ヲ日清ハ負担ス  
ロ、右金利ハ引合又ハ契約値段ニ込メズ、シアトル支店ハ本部宛手形ヲ取組ム都度、別ニ右金利ヲシアトルヨリ本部ヘ

請求スル事

ハ、本部ハ右請求アル毎ニ之レヲ日清ヘ請求スル事

(三) 端境期外国小麦需要見込

内地小麦ノ出廻リ切迫シ漸ク内麦手当時代トナレル処、尚此間特殊粉又ハ混合用ノ粘力小麦必要ノ筈ナルガ、大体七ノ八月積トシテ加奈陀又ハ北満小麦六、七千屯モアラバ充分ナラントノ事ナリ 以上

第一四回 一九二八年六月一九日

同文穀第五八号

同文 日清製粉株式会社

大連・哈爾濱・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・シドニー・京城・釜山・高雄・基隆・神戸・名古屋

昭和三年六月廿五日

穀肥部長 秋山昱禧(「木本」印)

シヤトル支店長 御中

日清ノ三菱第十四回打合会報告(六月十九日)

出席者 日清側 丸山氏・加藤氏・宇野氏・有田氏・山鹿氏・岩崎氏・土屋氏・板倉氏

三菱側 秋山・前島・塚原・西沢・塚田・西川(沙都)

小麦ニ付テ

(一) 北満小麦ノ缺斤

北満小麦ハ缺斤壹歩マデ容赦、壹歩以上売人負担トナリ居ル処、特ニ最近入荷品ハ三菱ノモノモ他社ノモノモ缺斤甚ダ多ク、五月十五日浜入港ノバルチモア丸積ノ如キ式歩以上ノ缺斤アリ、其都度之レヲ三菱ニ負担願フモ心許ナク、且買手トシテモ採算上困ル故積出地ヘ注意スル様日清ヨリ希望アリ、之レニ対シ当方ハ米加濠州小麦ト異リ、奥地貨車積數量ラインボイス面數量トスル關係ト、特ニ最近ハ雪下小麦多キ故、自然水分多ク之レガ輸送中蒸発スルニ因ルト思フモ、兎ニ角ハルピンヘ注意スル事ニ返事ス

(二) 米國小麦ノ田舎買

米國太平洋岸小麦ハ從來 *FOB basis* ニテ買付居タル処、今後ハ *on track basis* ニエル所謂田舎買ヲモ併用致度、場合ニヨリテハ此分ニ限り特ニ手数料ヲ殖ヤスモ差支無キ故、至急研究ノ上実現方日清ヨリ希望アリ、当方ハ目下シアトル並ニ本部ニテ着々研究中ニ付、出来ル丈早く希望ニ副フベキ旨回答シ置ケリ

(三) 外國船ノ利用

米加小麦積取ニハ外國船ト雖モ運賃低率ナル限り利用スル様日清ノ希望アリ、当方ハ從來共内外船ノ區別無ク低率好条件ノモノヲ使用スル方針ヲ採リ来レル事故、今回モ此方針ニテ進ム事トス

(四) 鶴見・横浜揚小麦受渡

從來ノ日清横浜駐在員ヲ近ク廢シ鶴見ニ移ス故、鶴見<sup>(ウキ)</sup>□浜揚小麦受渡乃至船会社トノ折衝等ハ、精々三菱ノ受渡係員ニテ世話シ呉度トノ希望アリ、当方ハ充分考慮スル旨返事セリ

(五) 米加小麦積地立会

最近入荷ノ加奈陀六号品ノ如キ *shipment* ニヨリ随分品質ニ相違アリ、又積出數量ノ 5% more or less 条項ノ適用トカ

storage 監督ニ付テモ、矢張り現場ニ於テ買手ガ直接売手乃至船会社ト交渉スルヲ有利トスルニ付テハ、精々積荷役現場ニ社員ヲ立会ハシムル様日清ノ希望アリ、当方出来ル丈右様取計フ事ニ諒承セリ  
小麦粉

(一) 記事無シ 以上

第一五回 一九二八年一〇月二三日

同文穀第二七号 同文 日清製粉株式会社

大連・ハルピン・天津・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・シドニー・京城・釜山・高雄・基隆・神戸・名古屋

昭和参年拾月式拾九日

穀肥部長 秋山昱禧(「木本」印)

沙都支店長 御中

日清／三菱第十五回打合会報告(拾月廿参日)

出席者 日清側 加藤氏・宇野氏・山鹿氏・土屋氏・山之内氏・深沢氏

三菱側 秋山・木本・前島・塚原・塚田

小麦ニ付テ

(一) 米加小麦買付値段

日清製粉・三菱商事の提携と打合会

東京・神戸・名古屋ノ買付値段ガ同時且ツ同条件ノモノニシテ往々相違アル事アリ、精々安値買付ハ勿論望マシキモ、日清トシテハ不都合生ズルヲ以テ、是非此ノ如キ事ヲ避クル様日清ヨリノ申入アリ、之ニ対シテ当方ハ極力日清ノ希望ニ副フ様努力ス可キモ、唯最近Poolハ市価釣上ヲ目論見居リ、自然其売値ハ必ズシモ常ニ最モ安カラズ、従ツテシヤトル支店ハイキホヒ他ノ店ヲ安値買漁ル關係上、時ニ出来値ニ幾分ノ高低ハ免レザル事情説明ノ上、了解ヲ得置キタリ

(一) 為替率

日清ヨリ、米加小麦引当為替率ハ最近ノ例ヲ見ルニ、概シテ名古屋ハ東京ヨリ好rateヲ出シ居レルガ、之ハ採算上重大ニ付、精々正金東京支店ヲシテ一層勉強セシムル様懇請アリ、之ハ市場ノ相異、出合ノ關係、正金ノ内情等ヨリ常ニ東京・神戸・名古屋同rateヲ獲得スル事ハ不可能ナルモ、今後一層当地正金ヲ押シ、極力有利取極ニ努力スル旨回答シ置キタリ

### (二) 為替銀行

従来概シテ他行ニ比シ好rateヲ出セル事トB\C不要ノ為、小麦引当為替ハ殆ンド全部正金ノミト取極居レルガ、今後ハ正金一行ニ限ラズ一般市巾一流銀行ヲ漁リ、最モ好rateヲ出ス銀行トモ取極メル一方ニ於テ、正金ノ牽制ニモ利用シテハ如何ト懇懇セル処、日清モ之ニ同意、今後此方針ニ捩ル事ニ打合せタリ

### (四) 我社社船利用

我社社船"Olympia"及ビ"Columbia"ハ、予定航海表ヲ予メ日清ヘ差出シ置キ、小麦ノ端境期三、四ヶ月ヲ除キ、日本向船腹ハ全部日清小麦積取ニ利用アリ度、運賃ハ其都度取極メノ事ニ致度旨当方申出ニ対シ日清ノ快諾アリ、早速実行ノ事トス、尚日清ヨリ目下"Olympia" "Columbia"両船日取ノ差僅カ拾日位ナルガ、買付並ニ積取ノ都合モアレバ今少シ間ヲ置ク様取計方希望申出アリ、早速船舶部ト交渉スル事トセリ

(五) 運賃支払時期

米加小麦運賃ハ從來積込完了ト同時ニシヤトルニテ全額支払ヒ居タルガ、過般日清ヨリ荷揚完了後支払ノ事ニ交渉方依頼ヲ受ケ各船会社ト折衝中ノ処、其ノ成行ニ付日清ノ質問アリ、之ニ対シ当方ハ船会社ハ何レモ金融難ニ苦シミ居ル故最初強ク拒ミタルモ、山下ニ対シテハ運賃全額ノ四分ノ一位迄ハ後払ニテ我慢セシメ得ル見込ニシテ、他社モ同程度迄譲歩セシメ得ベキ旨申述べタルニ対シ、日清ヨリハセメテ半々払位ニ交渉方希望重ネテ申出アリ、当方精々折衝スベキ旨回答セリ

(六) 外麦相場

今日迄往々当方入電外麦相場其儘ノモノガ、小麦及麦粉干係ノ通信ニ記載サレ居レルガ、之ハ容易ニ日清ノ原料買付事情ヲ世間ニ窺知サレ、且又製品ノ相場ニモ影響ヲ及ボシ非常ニ不利ナレバ、今後日清及吾社ノ各地支店及取引先トモ談合ノ上、新聞紙ニ相場発表ノ已得ザル場合ハ、入電相場ヨリ参拾仙方高値発表ノ事ニ打合せ、早速実行ノ事トス  
小麦粉ニ付テ

(一) 拾月式拾式日附当方塚原事務報告書記載中

第一項ノ芝罘・竜口・秦皇島等新販路ニ対シテハ、極力当方及各支店希望通り取計可申旨、日清ヨリ返事アリタリ又第七項支那側ノ希望モ亦至極尤ニ付、今後ハ注意可致旨日清ヨリ返事アリタリ

(二) 尚上記報告書第六項記載事項ハ勿論諒承セルガ、只第五ノポスター毎年配布ノ件ハ、協議ノ上追而返事可致旨日清ヨリ返事アリタリ

同時ニ同第拾壹項ノ宣伝方法トシテノ富籤又ハ景品付販売方法ハ、ポスターヨリモ有効ト思フニ付、至急具体案作成申出願度旨日清ヨリ申入アリ、当方各支店ヨリ立案申出アリ次第打合ノ事トス

(三) 南洋殊ニ爪哇同取引ノ件ハ、日清側申出ニ依リ目下支那商向直売方針決定ニ対シ、当方スラバヤ支店へ照会中ニ付、同支店ヨリ返事アリ次第具体的協議ニ入ル事トセリ 以上

第二三回 一九二九年四月二三日

同文穀第31号 同文 日清製粉株式会社

大連・天津・秦皇島・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・シドニー・神戸・名古屋・京城・釜山・基隆・高雄

昭和四年四月廿七日

穀肥部長 秋山豆禧(「秋山」印)

シアトル支店長 御中

日清・三菱第二十三回打合会報告(四月廿三日)

出席者 日清側 加藤氏・宇野氏・山鹿氏・土屋氏・今村氏

三菱側 秋山・宮本・藤野・塚原・安沢・塚田

(二) 小麦粉ニ付テ

一、三井ニテハ奉天・安東地方へ相当売込居ルニ反シ、三菱ニテハ未ダニ何等実績挙リ居ラズ誠ニ心許無キ次第ニ付、兎ニ角至急直接売込始方尽力願度旨、日清ヨリ申出アリ

一、更ニ又統計其他三井ノ販売模様、外国粉引合状態等各種情報ヲ綜合シテ按ズルニ、大連・營口・安東三港ヲ經由シ、

南滿地方へ日清粉平均月額四拾万袋ハ優ニ売込ミ得ル見込ニテ、日清ニテモ其積リニテ計画ヲ立テ居ル次第ニ付、是非共右以上売込方特別ノ考慮願度旨附言申出アリタルニ付、当方ヨリハ右ノ旨早速弊大連支店ニ申送り、極力同支店ヲ激励可致旨返事シ置キタリ

一、同時ニソレニ付キテモ、先般来未解決ト相成リ居ル奥地発送分ニ対スル割戻ノ件、弊大連支店ヨリモ希望申出アルニ付、此際右割戻ノ方法及程度並ニ実施期間ニ関シテハ、同支店ト日清出張員トニ一任願度旨申入レタル処、本件今村氏ヨリモ話アリタルニ付、万事ハ日清出張員ニ一任スル事ト致シタル故、今後ハ總テ同出張員ヘ相談可然処理願度旨返事アリタリ

一、尚弊大連支店申越ノ滿鉄沿線委託品積送ノ件ハ、三菱ニ於テ保管上ノ責任ヲ負擔シ被下ナラバ一向差支無之ニ付、是亦万事日清出張員ト打合セ大連向委託積送品中ヨリ適當御積送被下度旨、日清ヨリ返事アリタリ

## (二) 小麦ニ就テ

一、米加小麦ノ協定金利

昭和三年六月二日付第十三回打合会報告ノ通り、爾来積地ニ於ケル米加小麦代金支払以後手形取組迄ノ日数ヲ二日半ト協定シ、金利ヲ勘定シ来レルガ、今回日清ヨリ右ハ積出港ニヨリテモ実情異ルベク、又一般ニ以前ヨリハ余程日数短縮セラレ居ルコトト思ハルルニ付、関係場所ニ実情ヲ照会ノ上、右協定日数改訂方申出アリタリ

当方ハ早速シアトル支店ヘ照会ノ上、事実短縮可能ナラバ実行スル旨回答セリ

二、米加小麦ノ缺斤

鶴見工場ニ於テハ吸上機ヲ用フル関係上缺斤歩合ハ極メテ低キ筈ノ処、往々〔〇〕・五%位ノ缺斤ヲ見ル事アリ、種々研究ノ結果其原因ハ積地側ニアリト考ヘラルルニ付、積込事情照会ノ上種々現場立会ノ上、缺斤ヲ勘カラシムル様一



層努力方日清ヨリ希望アリタリ

当方ハ日清ヨリ荷揚成績表入手ノ上ニテ本件積地へ申送ル事トセリ

三、樺太小麦

日清ニテ品質優良ナル樺太小麦買付度旨申出アリ、当方右実現方直チニ手配スル事ニ打合セタリ 以上

第二四回 一九二九年五月一六日

同文穀第五二号

同文 日清製粉株式会社

弊大連・ハルピン・天津・秦皇島・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・シ  
ドニー・神戸・名古屋・京城・釜山・基隆・高雄

昭和四年五月二十日

穀肥部長 秋山豆禧〔秋山〕印

シヤトル支店長 御中

日清 三菱第二十四回打合会報告（五月十六日）

出席者 日清側 丸山氏・加藤氏・宇野氏・山鹿氏・石井氏・土屋氏

三菱側 秋山・宮本・藤野・塚原・安沢・塚田・谷川（シヤトル）

（二）小麦ニ付テ

北満小麦品質検定方法

従来三菱經由買付北満小麦品質ニ付テハ、産地ニ於ケルゾロヲ以テ「Bin」トシテ受渡ヲ為シ来レルガ、今日迄揚地ニテ再檢セル結果ヲ見ルニ、常ニ産地檢定ノゾロ數ヨリモ低ク、甚ダ迷惑ヲ蒙リ居レリ、就テハ一般ニ地場問屋經由買付ノ場合ゾロハ揚地檢定ノ条件ナル事ニモアリ、産地トモ交渉ノ上、地場問屋同様揚地ニ於ケル檢定ゾロ標準トシテ受渡ノ事ニ取計方日清ヨリ希望アリタリ、当方ハ早速ハルピン出張員ヘ右ノ趣申送り、産地事情篤ト研究スル旨回答シ置キタリ

(二) 小麦粉ニ付テ

ナシ 以上

第二六回 一九二九年九月一九日

同文穀第九号 同文 日清製粉株式会社

大連・ハルピン・天津・秦皇島・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・シド  
ニー・神戸・名古屋・京城・釜山・基隆・高雄

昭和四年十月四日

穀肥部長 秋山昱禧（「秋山」印）

シアトル支店長 御中

日清・三菱第廿六回打合会報告（九月十九日）

出席者 日清側 丸山氏・加藤氏・宇野氏・山鹿氏・土屋氏

日清製粉・三菱商事の提携と打合会

三菱側 秋山・松井・島谷・宮本・井上・岡（ハルピン）・藤野・安沢

（一）小麦粉ニ就テ

井上事務ヨリ香港ノ麦粉事情ニ就キ種々報告アリ、今後対同地売込ニ就テハ、怎シテモ日清粉ノブランドガ市場ニ通ル迄、約壹年間位ハ品物ガ市場ニ絶ヘザル様、月々連続シテ委託積送スル要アリ、斯クテ市場ニブランドガ認メラルルニ至ラバ、現在極度ニ冷淡ノ態度ヲ持シ居ル有力問屋筋モ漸次取扱ヲ希望スルニ至リ、榮ニ相当数量売込ミ得ル事トナル可シ等ノ意見開陳アリ、日清ニテハ現在ノ如ク彼我値開キ甚シクテハ余程苦痛ナルモ、本件兎ニ角更ニ研究打合ノ上、連続委託積送方考慮ス可キ旨返事アリタリ

（二）小麦ニ就テ

神奈川丸積亜爾然丁小麦ノ一部、品質特ニ優良ナルモノガ袋入トシテ積込マレタル結果、普通品ハ普通品トシテ、又右優良品ハ優良品トシテ夫々品質ニ応ジ、適当ナル用途ニ向クルコトヲ得タル為メ大ニ便宜ヲ得タリ、就テハ今後共事情許ス限り優良品ハ之ヲ袋入トシ、普通品質ノ撒小麦ト区分シテ積出サレ度旨日清ヨリ希望アリ、尤モ其結果袋入小麦ノ wet gluten 含有量ハ四〇%ヲ超ユルモ、一方撒積小麦ニ就テハ三五%以下トナルベキガ、全体トシテ平均三五%ヲ保証セラルナラバ差支ナシト云フ、依テ右ノ趣倫敦支店ヘ申送ルコト、セリ 以上

\*第一回 一九三〇年五月三一日

同文穀第九〇号

同文 日清製粉株式会社

弊大連・天津・秦皇島・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・シドニー・紐育・倫敦・ハルピン・奉天・神戸・名古屋

写 弊台北・高雄・京城・釜山

昭和五年六月十日

穀肥部長 秋山豆禧（秋山）印

シアトル支店長 御中

日清・三菱第一回打合会報告（五月卅一日）

出席者 日清側 正田氏・星野氏・加藤氏・山鹿氏・斎藤氏・土屋氏

三菱側 加藤・秋山・島谷・宮本・藤野・安沢

小麦粉二就テ

一、我社加藤常務ヨリ、夫々各販売地ニ好適ノ Brand ヲ作り、有力ナル取引先ニハ一種乃至数種ヲ専用セシムル事トセバ面白カル可キ旨話アリ、本件既ニ各販売店ニ於テ研究シ、香港等ニテハ現ニ実行中ノ処、種々ノ関係ニテ実行困難ナル市場モアル模様ナルガ、相当効果ヲ挙ゲ得可キ見込ニ付、此際各場所ニテ更ニ研究ノ上日清ト打合ス可キ事トセリ

二、日清正田社長ヨリ鶴印・紅緑三菱印ノ如ク一般的ノモノハ多量ニハ売レルモ利益ハ比較的ニ尠キ処、何等カ特殊ノモノニテ数量ハ上ラザルモ意外ニ好値ニ売レルト云フモノアル可シト思フニ付、此方面ニ向ツテモ三菱各販売店ニ於テ研究ヲ進ムル様希望アリ

右二就テハ日清ヨリ如斯モノハト思フモノヲ隨時製造願ヒ、一方我社販売店ニテハ外国粉ノ売行模様等取調ノ上、見込アルモノハ見本ト共ニ事情同社ニ通知ス可キ事ニ打合セタリ

三、日清ヨリ従来同社大連及天津出張員ト三菱支店トノ協調ニ多少遺憾ノ点アリシヤニ思ハル、処、日清トシテハ調査宣

伝等ニ付両社ノ隔意ナキ提携ヲ希望シ、現ニ前記ノ如キ甘味アル品質ノモノヲ外国粉中ヨリ見出サシムル等、今後共努  
力セシムル考ニ付、右了解ノ上一層出張員ヲ十分利用スル様取計方申出アリ

右ニ関シ加藤常務ヨリ同感ナリ、尚日清出張員ト大連乃至天津支店ノ麦粉係員ト丈ガ顔ヲ合セ居ルノミニテハ十分ナラ  
ズ、旁々今後ハ適宜支店長ヲ交ヘテ懇談打合ノ機会ヲ作ルコト可然、委細支店長ヘ夫々申送ルベキ旨話アリタリ

四、日清ヨリ各仕向地ニ於ケル小麦粉受渡ニ就キ今一段ノ尽力煩度、今後ハ現品到着ノ節當該三菱支店ニテ親シク着荷状  
態取調ノ上、不足乃至過剩數量並ニ乱袋ノ程度、數量等詳細通知スルハ勿論、品質ニ就テモ入念点檢ノ上万一苦情ノ虞  
アル如キ際ニハ不隙通知ヲ希望アリ、實際現品受渡後ニ至リテノ苦情ハ日清トシテハ苦痛ナル旨申出アリ

右ニ対シ秋山部長ヨリ昨年ノ大連及天津ニ於ケル品質不良問題ニ鑑ミ、日清ニテモ品質ノ点十二分ノ注意ヲ払ハレ度旨  
申入レタリ、尚右着荷状態ノ取調・報告等ハ日清希望ノ如ク取計フ可キモ、只品質ニ就テハ斯ク販売店トシテハ色相ノ  
良否ヲ見分ケル位ノ程度以上ニ出ル事困難ナル可ク、グルーテンノ多寡、性質其他實際使用成績ノ如何等ハ結局消費者  
ノ手ニ入ル迄ハ判明セザル可キ旨申入レタル処、日清ヨリ其ノ程度ニテモ宜シキ故、兎ニ角受渡ニ対シ出来ル丈細心ノ  
注意ヲ為ス様、尚本件着荷状態取調等ニ就テモ大連・天津ニ於テハ精々同社出張員ヲ利用ヲ希望アリタリ

五、日清ヨリ大連・天津其他各販売地ニ於ケル諸掛ヲ何トカシテ一層切詰方希望申出アリ、本件当方目下各販売店ト打合  
中ニ付、追テ其ノ報告ヲ待チ改メテ同社ト何分ノ打合スル事トセリ

六、日清ニテハ工場操作ノ關係上雀印・花印等ノ如キ裾物ヲ製出セザルヲ得ザル次第ナルガ、之等裾物ニ就テモ毎月略々  
一定ノ數量売込ミ得ル見込立タバ至極好都合ニ付、大体一定數量継続的ニ売レル様尽力ヲ希望アリ、当方右ニ就キ各品  
別ニ大体壹ヶ月何程位生産サレルモノナリヤ承リタル上、引合度旨申入レタル処、追テ取調ノ上通知ス可キ旨返事アリ  
タリ

尚右ニ関聯シ日清ヨリ、鶴印級以上ノモノハ品質絶対ニ動揺スル事無キ確信アルモ、綠蟬印級以下ノ裾物ハ品質多少高下アル事不得已ニ付、其含ミニテ引合フ様申出アリタリ

七、日清ヨリ支那其他販売地ノ事情ハ同社ニテハ詳細知ル由無キ次第第二モアリ、販売増進ニ資ス可キ方策其他氣付ノ点ハ三菱ヨリ精々積極的ニ提案スル様希望アリ、尤モ日清トシテハ種々ノ都合モアリ、右提案ニ応ジ得ル場合ト然ラザル場合トアル可キニ付、此点ハ予メ含置ク様附言アリ、当方極力同社希望ニ応ズル様取計フ可キ旨回答シ置ケリ

八、最近天津支店其他ヨリ屢々引合アルニ対シ、日清ニテハ全然売り控ヘノ方針ナルガ、何トカシテ精々引合ニ応ズル様申入レタル処、右ハ原料關係等ニテ不得已シモノナレドモ、近日中ニハ原料モ都合付ク筈ニ付、其上ハ出来ル丈ケ応ス可キ旨回答アリタリ

小麦ニ就テ

濠州及加奈陀小麦品質ノ件

外国小麦ノ内、特ニ濠州及加奈陀小麦ハ同一品種ノモノト雖モ其品質ハ年度ニ依リ甚數相違スルガ常ナルヲ以テ、毎年三菱ニ於テ出来ル丈ケ早ク各産地及各品種ノ代表的見本ヲ蒐集シ、之ヲ日清ヘ送付スルコトハ勿論、産地専門家ノ意見ヲ徴シ、或ハ分析ニ附スル等、可然方法ヲ講ジテ品質ニ関スル報道ノ迅速並ニ正確ヲ期シ、以テ日清ノ買付品種選定ヲ有利ニ導クコト、右ハ海外支店ト打合済ノ事項ニテ、従来出来ル丈ケ実行シ来リタル次第ナルガ、本年度南濠州小麦ノ品質予想外ニ不良ナリシニ鑑ミ、今後ハ右打合ヲ一層有効ニ励行方關係支店ヘ重而申送クルコトニ打合せタリ 以上

\*第二回 一九三〇年七月一日

同文穀第一二五号 同文 日清製粉株式会社

日清製粉・三菱商事の提携と打合会

大連・ハルピン・奉天・天津・秦皇島・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・  
シドニー・紐育・倫敦・神戸・名古屋  
写 台北・高雄・京城・釜山

昭和五年七月三日

シアトル支店長 御中

穀肥部長 秋山昱禧〔秋山〕印

日清・三菱第二回打合会報告（七月一日）

出席者 日清側 正田氏・星野氏・加藤氏・山鹿氏・斎藤氏・土屋氏・山内氏

三菱側 加藤・秋山・島谷・宮本・藤野・安沢

小麦粉ニ就テ

日清天津出張員山内氏ノ報告ヲ中心ニ左記諸点ヲ打合セタリ

一、天津地方ニハ高級並ニ下級粘力品（従来時々神戸ヨリ積出シタル花印程度ノモノ）相当売行ノ見込アリ、就テハ帰京  
以来日清本社ニテ種々研究打合ノ結果、略々成案ヲ得タルニ付、遠カラズ試験のニ少量積送スル筈ナル旨、山内氏ヨリ  
話アリ

尚正田社長ヨリ、同社トシテハ右様ノ特殊品ヲ値売スル事ニ依リ得タル利益ヲ以テ、鶴印・紅緑三菱印ノ如キ一般大量  
引合品ノコスト切下ゲ取引促進ニ資シ度ニ付、三菱ニテモ十分協力スルヨウ希望申出アリ

二、山内氏ヨリ、天津ノ客先ハ最近ノ日清粉品質ニ就テハ大分好感ヲ持チ信用ヲ博シ居ル処、今後引続キ品質ニ変動無キ

様特ニ注意方客先ヨリ熱心ニ希望申出居ル趣、尚何レニシテモ品物ヲ絶ヤサヌ事ガ最モ必要ナル旨話アリ

右二関聯シテ日清ヨリ、今後神戸工場ハ専ラ内地向製品ヲ取扱フ事トシ、輸出向製品ハ凡テ鶴見工場ニ集中製造ノ事トセリ、旁今後ハ品質ノ統一等二就キ一層完全ヲ期シ得ル次第ナル旨話アリ

三、山内氏ヨリ、天津輸入米加粉ハ一昨年度ニ於テ約四百五十拾万袋、昨年度ニ於テ壹千万袋ノ巨額ニ昇リ、之等ハ天津地場ノミナラズ奥地向ニ大量売捌カレ居レリ、一方日清粉ハ一昨年度ニ於テ約貳百八拾万袋、昨年度ニ於テ百拾万袋、本年五月迄ニテ約百参万袋見当輸入ヲ見、大体一昨年度ノ売込出来ル見込ナルガ、日清マークノ奥地進出ニ就テハ尚相当發展ノ余地アリ、旁三菱ニ於テモ今後米加粉ニ對抗シテ此方面ニモ一層研究努力アリ度旨申出アリ

右二就キ日清粉ノ奥地進出ニハ一昨年来排日テウ障碍アリ、為メ二十分販路延ビ難キ事情アリシモノト思ハルル処、兎ニ角此際両社協力、天津地場ヘハ元ヨリ奥地向進出ニモ一段ノ努力ヲ払ヒ、少クモ一昨年ノ売込数量二百八拾万袋位迄ハ売捌ク意気込ヲ以テ進ム事ニ打合せタリ

四、山内氏ヨリ、秦皇島ハ将来頗ル有望ノ市場ニテ、殊ニ同地取引先ハ頗ル質実律儀ナル点アリ、旁三井ハ現在殆ド見ル可キ活動ヲ為シ居ラザル事ニモアリ、当分ノ間之等取引先ニ対シ、ヨク面倒ヲ見テ遣レバ漸次彼等ヲ日清粉ニ抱込ミ得可ク、上海粉ヲ駆逐スル事モ左シテ困難ニ非ル可シト思フ旨話アリ

右二就キ当方ヨリ、秦皇島向船腹獲得難ノ実情ニ鑑ミ、旁マークヲ絶ヤス事無ク一層發展ヲ期スル為メ、継続的ニ相当数量委託積送願度旨申入レタル処、日清ニテハ同感ニ付、貳、参万袋位ノ程度ニテ適宜委託積送方考慮可致旨返事アリタリ

五、山内氏ヨリ、三菱天津支店ニ於テハ外国小麦相場ニ関スルルーター電報購読無之処、一方三井ニテハ右購読シ居リ、之ガ問屋筋ニ伝ハル為問屋筋ノ方ガ三菱ヨリモ早耳ト云フ結果ヲ来シ、自然時ニ彼等ニ乗ゼラル、事無キニシモアラズ、



旁右購読料ハ壹ヶ月壹百弗位トノ事ニモアリ、今後は非共ルーター電報ヲ購読ノ事ニ取計願度旨申出アリ、本件天津支店ノ事情モアルベキモ、右希望ニ副フ様取計フ可キ旨返事シ置キタリ

尚山内氏ヨリ、三菱天津支店ガ日清粉売込ノ為非常ナル努力ヲ払ハレ居ルハ大ニ多トスル次第ノ処、今後共日清／三菱両本社間ニ於ケルト同様、万端精々同氏ト協力方三菱本店ヨリモ可然申添へ置願度旨附言申出アリ、当方承諾ノ旨返事シ置キタリ

六、日清ヨリ最近ノ不況対策トシテ、鶴見工場経費節約ニ対シ努力シ居ル実情ニ就キ話アリ、同時ニ先般来依頼シ居ル揚地諸掛節減方此際至急実行願度、殊ニ大連ニ於ケル諸掛ハ天津トノ振合ヨリ見テ稍多キ様思ハルルニ付、何トカ減額方特ニ配慮願度旨申出アリ、右ニ就キ当方ヨリ、大連ノ受渡慣習ガ乱袋ノ処理並ニ代金決算方法等ノ点ニ於テ天津ト大分趣ヲ異ニシ居リ、自然天津ヨリモ諸掛比較的多額ニ昇リ居ル実情ヲ説明シタルガ、何レニシテモ此際更ニ諸掛切詰方重ネテ各支店ニ申送ル可キ旨返事セリ

七、日清ヨリ、昨年天津ニ於ケル変質品処分ノ必要上、鶴見ヨリ同地ニ送付シタル電動式口縫用ミシンヲ大連ニ転送シ（天津ニテ別ニ購入シタル手廻式ミシンハ其儘同地ニ残シ置キ使用ノ事）、出来ルナラバ今後大連ニテモ乱袋ヲ改袋ノ上、正袋トシテ引渡ス事トシ、以テ乱袋缺斤ニ対スル諸掛節約ニ資シ度ニ付、可然取計方申出アリ、本件大連満鉄倉庫内ニテ電動式ミシンヲ使用スル事ヲ許可スルヤ否ヤ、モシ許可セズトセバ市中倉庫ヲ借入レ茲ニテ改装スル外無カル可キ処、引取賃其他ニ於テ不利ヲ来ス事無キヤ等研究ノ要アル可キニ付、万事大連支店ニ研究ヲ煩シ適當ノ処置ヲ採ル事ニ打合セタリ

小麦ニ就テ

ナシ 以上

\*第三回 一九三〇年十一月二十九日

同文農第五六号

同文 日清製粉株式会社

大連・哈爾濱・奉天・天津・秦皇島・青島・上海・香港・新嘉坡・スラバヤ・シアトル・  
シドニー・紐育・倫敦・神戸・名古屋

写 台北・高雄・京城・釜山・群山

昭和五年十二月四日

シアトル支店長御中

日清・三菱第三回打合会報告（十一月廿九日）

出席者 日清側 正田氏・加藤氏・山鹿氏・斎藤氏・土屋氏

三菱側 加藤・秋山・寺田・和田・藤野・安沢

我社加藤常務ヨリ日清ニ対シ、日東製粉株式会社成立ノ件ニ関シ其経緯並ニ我社トノ関係ニ就キ報告スル所アリタリ  
次ニ小麦粉ニ就テ

一、日清ヨリ営口向売込促進方申出アリ、右ニ対シ寺田大連支店長ヨリ先般上海粉ノ北支向移出解禁ト共ニ同粉ノ安値ノ  
進出ニ禍セラレタル実情説明、尚日清ニテモ今後米加粉ハ勿論、上海粉ニ対シテモ精々競争値段提供アリ度旨依頼シ、  
両社協力来春ヨリ極力同地向画策スル事ニ申合セアリ

二、日清ヨリ同シーズン濠州小麦ヲ相当数量手当シツツアル故、之ヲ主原料トスル新製品ヲ売出ス可キニ付、精々売払メアリ度旨申出アリ、右ニ就テハ両社ニテ適當ノマークヲ考案シ各地向売込ノ事ニ話合セリ

三、寺田大連支店長ヨリ双蝠印・鶴印・蟬印等ガ品質問題ノ為売行杜絶シタル今日、只一ツ残ル紅緑三菱印ニ再ビ同様ノ事アリテハ由々敷大事ニ付、此際本品品質確保方日清ノ特別ノ配慮願度旨申入レタリ

右ニ対シ日清正田社長及加藤氏ヨリ、厳密ニ品質ヲ一定スル事相当困難ナル事情ニ就キ話アリ、尤モ鶴印級以下ノモノハ兎モ角、紅緑三菱印ニ品質不向ヲ起ス様ノ事ハ絶対ニ無キ確信アリ、何レニシテモ本件今後共十分注意善処スル旨返事アリタリ

四、寺田大連支店長ヨリ撫順炭鉱向引合ノ重要性ニ就キ説明シ、右ニ対スル出シ値ハ日清ニテモ特別ノ考慮ヲ払ハレ度旨依頼セル処、日清トシテハ今後共精々安値提供可致旨返事アリタリ

五、寺田大連支店長ヨリ、社外船積送ハ航海日数不定乃至荷傷等ノ関係モアリ是非共定期社船利用方申入レタリ、本件日清トシテモ従来共原則トシテ社船利用ノ事ト致居レルモ、最近政府米輸出輻輳ノ為旁船腹獲得難ニ陥リ、時トシテ社外船利用ノ無已キ場合アリタル旨事情説明アリタリ

六、日清ヨリ大連ニ於ケル諸掛切詰方此上共取計アリ度旨申出アリ、寺田支店長ヨリ同地荷扱ガ満鉄独占ニテ他港ニ比シ割高ノ事情アリ、不得已ルモ満鉄ニテハ近ク右荷扱賃率引下方考慮中ナル趣話アリタリ

小麦ニ就テ

一、日清ヨリ近來三菱ノ値段三井其他ニ比シ割高ナルコト屢々ナルニ付、事ノ重大性ニ鑑ミ充分研究シ度旨話アリ

右ハ運賃率ノ相違其他特ニ起因スル所アルニ非ザルヤ、何レニセヨ他社値段ガ如何ナル程度ニ於テ割安ナルヤ、両社協力充分調査スル一方各買付店ノ注意ヲ促ス様申合セタリ

二、北満小麦ハ品質不統一ノ点ノ外、本シーズンハ外麦安ノ折柄、第一値段ニ於テ到底成約見込ナカルベキ旨談合スル所アリタリ  
以上